

## 第IV部 現存する戦争遺跡

第IV部では、現地調査を実施した結果、現存することが確認できた戦争遺跡 239 件について、報告する。文献の調査および実際に現地で戦争遺跡を実見、関係者へのヒアリング調査等を通して確認できた各遺跡の形状・構造・背景・現況などを記述した。画像は、所有者・管理者の承諾を得たものについて掲載した。

※所在地のカッコ内には、公有地に限り所有者を記載した。

※計測値は、本文中に特に記載がないものについては『愛知県史』による。

### 001 名古屋陸軍兵器補給廠

■ 軍需工場

所在地：名古屋市千種区北千種（名古屋市等）

明治 39 年（1906）、名古屋陸軍兵器支廠が兵器の貯蔵や修理、補給業務のため、愛知郡千種村、上野村に設置された。昭和 15 年（1940）、名古屋陸軍兵器補給廠へ改称。

塀は補給廠の東端に設置されたもの。コンクリート製で、高さ 1.8m、約 86m にわたり残る。現在は名電高等学校瑞若スポーツセンターとなっている。

境界柱は、愛宕公園内に 1 基、歩道に面して 1 基が残り、後者に「陸軍省」銘が確認できる。（調査日：2024 年 9 月 9 日）



### 002 千種公園の被災塀

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市千種区若水（名古屋市）

現千種公園に名古屋陸軍兵器補給廠の被災したコンクリート塀を移設したものである。4 面あり、うち 3 面に円形の穴が残されている。柱 5 本のうち 1 本のみ当時のものと思われるが傷んでいる。昭和 62 年（1987）に解説板が設置されている。（調査日：2024 年 8 月 1 日）



### 003 猫ヶ洞演習場の境界柱

● 軍事施設

所在地：名古屋市千種区下方町（名古屋市）

「陸軍」銘の石製境界柱で、猫ヶ洞演習場の西端付近に位置する。猫ヶ洞演習場は射撃や爆撃を行う演習場として、現在の平和公園周辺に所在した。民家の西側の道路上、民家と公道の境のコンクリートに一部めり込む形で境界柱が残されている。境界柱の正面から見て左側角がやや欠けている。全体的に経年劣化しているが「陸軍」の文字は確認出来る。（調査日：2024 年 10 月 8 日）



004

## 平和公園の被災墓碑

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市千種区平和公園

平和公園は、空襲によって被災した名古屋市街地を再開発するための、戦災復興土地区画整理事業の一つとして昭和22年(1947)に着工され、昭和56年(1981)に完成した。市街地にあった279寺院より墓碑18万9,030基が移設され、その中に元の場所で被災した墓碑が多数含まれていた。中区万松寺で被災した大原幽学の墓碑は一際損傷が著しい。(調査日：2024年9月12日)



005

## 名古屋陸軍墓地

▲ その他

所在地：名古屋市千種区平和公園(国)

名古屋陸軍墓地は、部隊在任中に死亡した兵等の埋葬地として、明治9年(1876)に東区出来町に設置され、昭和31年(1956)に平和公園に移設された。墓地中央北寄りには、万国英霊塔が建てられ、その南側に兵と下士官の墓が503基ある。墓石は、階級により大きさが異なる。このほかに将校の墓や日露戦争ロシア兵の墓15基、第一次世界大戦ドイツ兵の墓12基などがあり、合わせて730余基となる。(調査日：2024年9月12日)



008

## 片山八幡神社の被災鳥居・灯籠

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市東区徳川

境内の鳥居や、灯籠に被災して欠けた跡が残る。鳥居の損傷部分は現状では分かりにくい。本殿前の鳥居を境内から外に向かって見た左上部に損傷らしきものが見られる。また、境内東側の鳥居上部にも損傷らしきものが見られる。どちらも『愛知県史』に記載されている鳥居3基の損傷のいずれかに該当するかどうかは確認できなかった。また、境内には欠けた多数の灯籠が残存しているが『愛知県史』記載の被災したという6基がどれなのかは確定できなかった。(調査日：2024年9月6日)



009

## 山口神明社の楠木正成像

▲ その他

所在地：名古屋市東区徳川

境内の北側隅、「楠公湊川神社」の傍らにある。昭和15年(1940)に建立された、高さ105cmの騎乗する楠木正成銅像である。台座正面には「七生報国」(意味：何度生まれ変わっても国の恩に報いること)、背面銘板には「紀元二千六百年記念 昭和十五年建之 赤塚町 勲八等功七級 加藤善一 時年還暦」の銘がある。(調査日：2024年9月6日)



## 010 金城女子専門学校の奉安庫

▲ その他

所在地：名古屋市東区白壁

金城女子専門学校の講堂舞台中央壁面に造られた奉安庫。高さ140cm、幅190cm、奥行き60cm。重厚な三枚の板戸に覆われ、板戸を外すと、両引き戸が現れる。中は板張りで壁面に御真影を掛けたと思われる金具が残る。講堂は、昭和11年(1936)に3階建てRC造で建設された。現在は金城学院高等学校栄光館として使用されている。(調査日：2025年1月24日)

【奉安庫】天皇陛下の御真影を収納する収納庫である。講堂の舞台正面に造られたものは、儀式など行事の際に開扉され掲示された。



## 011 養念寺の被災鐘

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市東区泉

この喚鐘は、昭和20年(1945)3月25日の空襲により被災した。撞座部分に爆弾の破片が当たり貫通している。銘文に徳川宗春の生母宣揚院両親のゆかりの寺で、この鐘が享保17年(1732)に铸造されたと記されている。徳川氏に関することが書かれていたため、金属回収を免れたといわれている。(調査日：2024年11月16日)

【喚鐘】法要や儀式の開始を知らせるために使われる鐘。



## 012 圓明寺の梵鐘代替品

▲ その他

所在地：名古屋市東区泉

花崗岩製の梵鐘代替品で、高さ約90cm、底径60.5cmある。昭和17年(1942)に梵鐘供出後、鐘楼に吊るされた。寺院の前には「石鐘」として代替品が吊るされた経緯や、戦争の記憶を残すために吊るし続けている旨が紹介されている。計測値は『学芸員と歩く愛知・名古屋の戦争遺跡』による。(調査日：2024年9月6日)

【梵鐘代替品】金属供出により青銅製梵鐘が鐘楼から取り外された際に、その代替として設置されたもの。鐘楼は瓦屋根を4本の柱で支えているため、倒壊の危険が生じた。そのため重しとして石を吊り下げたり、鐘の形に石を加工したりして吊り下げた。



## 013 綿神社の被災鳥居

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市北区元志賀町

昭和20年(1945)5月14日の空襲で鳥居の木造部は焼失し、花崗岩製の左右石柱の基部のみ残存している。残存部には被災の痕跡は見られない。(調査日：2024年9月17日)



015

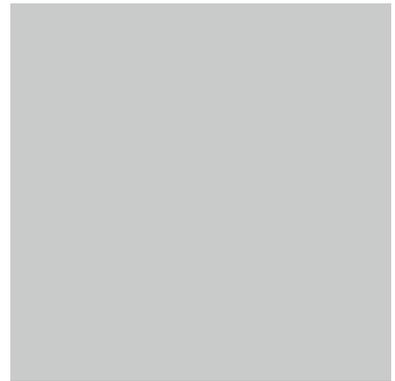
## 日比津の乃木希典像



その他

所在地：名古屋市中村区日比津町

高さが190cmの花崗岩製の像。昭和9年（1934）、忠魂場に建立された。石垣基壇上に台座が置かれ、その上に像がのる。石製台座の正面には「奉獻」、側面には「青年団創立十週年記念」、背面には「昭和九年十月十七日」とある。像には目立った損傷はなく、状態は良好。（調査日：2024年8月1日）



016

## 広井神明社の乃木希典像



その他

所在地：名古屋市中村区名駅

高さが116cm、台座が165cmの花崗岩製の像。広井神明社入口に大神宮、村社神明社の標柱に並んで設置されている。像は切積み石垣の上の台座に載っている。右の肩から腕にかけて煤のような汚れがある。台座正面には「還らざる社頭の勇姿を偲びて」、背面には「昭和50年12月修復」と刻まれている。軍刀の先は補修されている。（調査日：2024年9月6日）



021

## 名古屋市役所北の松やに採取跡



その他

所在地：名古屋市中区三の丸（名古屋市）

名古屋市役所周辺の歩道に植えられている松並木のうち、6本の幹には、松やにを採取した傷痕が残っている。昭和19年（1944）頃、航空機燃料用として採取していた。傷痕は、V字形で根元から1m程度の位置にあるが、車道側を向いているものが多く、歩行者からは気づきにくい。（調査日：2024年10月22日）



024

## 被災した檀溪之勝蹟碑



空襲・戦災

所在地：名古屋市昭和区五軒家町

尚文寺に建てられていた石碑で、昭和20年（1945）3月25日の空襲により被災し、二つに折れるなど大きく損傷した。平成3年（1991）に修復され、現在の檀溪橋東交差点の角地に復元された。石碑の向かって左側面には「大正九年十月森田吾樓居士建之」、右側面は下部に「法□二百五十□ 檀溪徹和」と見える。（調査日：2024年9月6日）

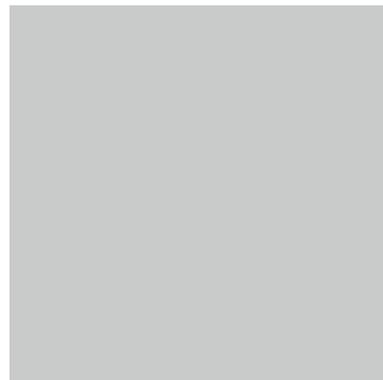


## 025 西福寺の被災標柱

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市昭和区円上町

昭和20年(1945)の空襲により、本堂は全焼したほか、花崗岩製で「大澤山西福寺」と書かれていた標柱は上部が破損し、「大」の字の部分が失われた。また、標柱の向かって左側面も「□年記念 正五位勲四等大島福造書」と上部を欠くほか、数箇所が大きく破損している。(調査日：2024年10月15日)

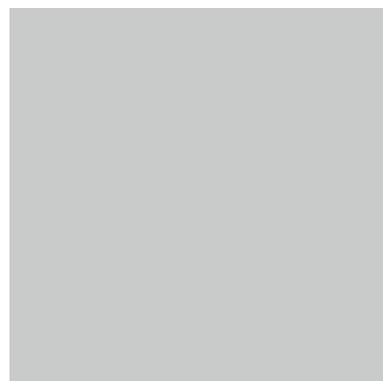


## 026 中山神明社の被災鳥居

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市瑞穂区中山町

花崗岩製の鳥居・灯籠に被災跡が残る。空襲により、鳥居の上部が黒ずみ、その他にも数箇所に被弾した傷跡が残っている。また、灯籠も空襲の被害を受けた痕跡がある。(調査日：2024年9月6日)

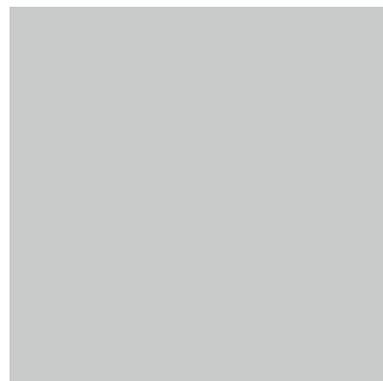


## 027 八剣神社の被災鳥居

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市瑞穂区御剣町

花崗岩製の鳥居上部に被災跡が残る。空襲により被災と考えられる。一見、被災跡は分かりにくいですが、参道入り口に向かう側から右の柱上部、貫の差込み付近の柱に被弾跡と思われる欠損がある。また鳥居の上部が黒ずんでいる。(調査日：2024年9月6日)

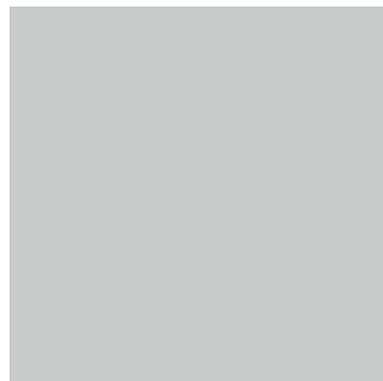


## 028 佐渡町の被災した門と楓

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市瑞穂区佐渡町

昭和20年(1945)5月17日の空襲の際、焼夷弾により母屋が全焼し、庭の楓樹に焦げた裂け目が残っている。門や板塀の被災の跡ははっきりとは確認できない。火を被ったためか門の冠瓦が赤みがかっている。(調査日：2024年10月15日)



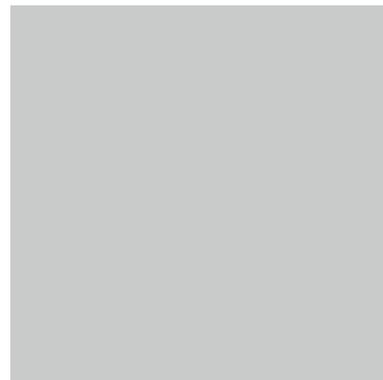
029

## 龍泉寺の被災地蔵

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市瑞穂区井戸田町

高さが38cmの砂岩製の地蔵尊像。昭和20年(1945)5月17日の空襲により本堂は焼け、地蔵尊像も被災した。顔と両手首を失い、身体も半分に割れてひびが入った状態で、現在も参道脇の石の上に鎮座している。(調査日:2024年9月6日)



030

## 陸軍造兵廠熱田製造所の建物

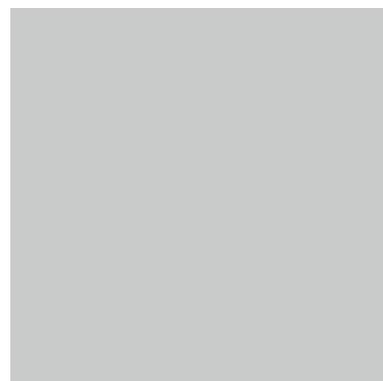
■ 軍需工場

所在地：名古屋市熱田区六野

明治37年(1904)11月4日、東京砲兵工廠砲具製造所熱田分工場として発足し、観測車、弾薬車、山砲、航空機用機関砲などを製造していた。昭和15年(1940)名古屋陸軍造兵廠熱田製造所と改称された。

現在、製造所の敷地は西側が中京倉庫(株)、ファインセラミックスセンターなど、東側が名古屋神宮郵便局、宅地などとなっている。

現在、中京倉庫(株)敷地内に煉瓦造二階建て建物(倉庫)1棟、煉瓦造平屋建て建物(水圧工場、鍛工場)3棟が残っている。(調査日:2024年12月25日)



032

## 梅萼院の被災門柱

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市熱田区白鳥

花崗岩製の門柱で、空襲により上部が被災破損した。正面の石段を上った所に残る石製の門柱には、かつては鉄製アーチや門灯が取り付けられていたが、昭和20年(1945)6月9日の「熱田空襲」によって門柱の頭部と共に吹き飛ばされた。向かって右側の門柱の上部が大きく破損しており、両門柱とも火を被った痕跡がある。(調査日:2024年10月15日)



033

## 堀川堤防の被災跡

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市熱田区千年(名古屋市)

堀川の右岸堤防で、昭和20年(1945)6月9日の「熱田空襲」により被災した。被災跡が明瞭に残るため、平成8年(1996)に一部を切り取り、堀川千年プロムナードとして整備された遊歩道脇に移設された。解説板と共に展示されている。(調査日:2024年9月6日)

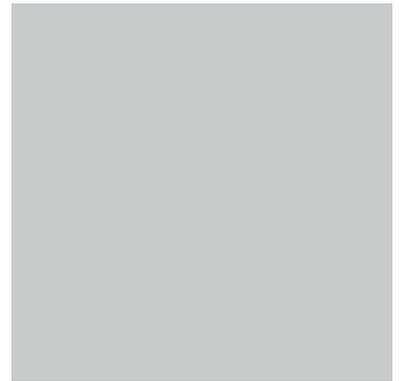


## 034 千年八幡神社の被災灯籠

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市熱田区千年

焼夷弾が当たって欠けた花崗岩製灯籠。境内に4基ある灯籠のうち、一つの笠の部分に空襲で被災した痕跡が残る。灯籠の竿の部分に「献燈」「寄附人 浅井冨次郎 浅井常義」「昭和七年九月」と彫られている。(調査日：2024年9月6日)



## 035 千年八幡社の被災鳥居・石柱

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市熱田区千年

空襲で石製鳥居や標柱に被災した跡が残る。鳥居は、上部北側の端に欠けた跡があり、柱の根元近くには欠けと黒色の汚れが付着している。また標柱の背面の中央付近には爆撃によると思われる穴があり、右側面に黒色の汚れがある。(調査日：2024年9月6日)



## 036 熱田神宮の被災鳥居

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市熱田区神宮

熱田神宮正門(南門)、木造鳥居の、美濃路方向から向かって右側の柱の中央付近に隅丸長方形の傷が1箇所確認できる。被災した痕跡と伝えられているが、その際の傷か否かは確認できない。聞き取りでは被災した記録はないとのこと。(調査日：2024年11月16日)



## 038 愛知航空機(株)永徳工場のすべり(スリップ)

■ 軍需工場

所在地：名古屋市港区野跡

庄内川に突き出すようにコンクリート造の斜路が造られている。これは、水上機を水面に揚げ降ろしするためのすべり(スリップ)である。昭和16年(1941)、愛知時計電機(株)は、航空機機体生産のため、永徳工場を設立した。昭和18年(1943)、愛知航空機(株)として分離独立した。永徳工場では、水上機を生産していたため、完成機はすべりを使用して庄内川で飛行させた。

すべりは、現状では多少傷んではいるが、中央線を示す陶製目印も残る。幅31m、長さ70m余ある。東側には突堤が附属し、船を係留する突起がある。(調査日：2024年9月6日)



040

## 名古屋港の被災灯台

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市港区潮凧町（名古屋市等）

10号地埠頭（現潮凧埠頭）先端のコンクリート造灯台。昭和14年（1939）に建造。上部は空襲により、避雷針と折れ曲がって一部欠損した鉄柵のみが残されている。コンクリート本体は10箇所ほどえぐり取られ、数箇所の鉄筋が剥き出しになっている。10号地埠頭再開発のために現在地に移設された。（調査日：2024年12月18日）



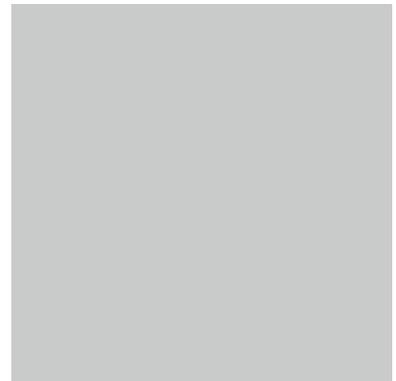
041

## 山崎橋の被災親柱

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市南区呼続

明治21年（1888）に架けられた山崎橋の石製親柱は、昭和20年（1945）5月17日の空襲で被災したため、現在地に移設された。頂上部は被災の影響か判然としないが、黒く変色している。銘文は「山崎」までは確認可能。「山崎」の文字が刻まれた右上部分が大きく欠損している。（調査日：2024年9月6日）



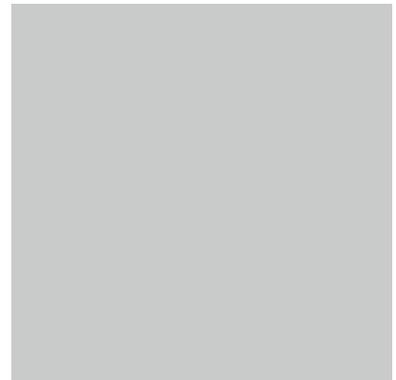
043

## 宮前の防空壕

▲ その他

所在地：名古屋市守山区大字中志段味

諏訪神社の北の崖下に防空壕の跡と思われる横穴5箇所の入口があったとされる。調査では横穴と思われるものも含めると2箇所が確認された。聞き取り調査によると、一部は埋め立てられたとのこと。（調査日：2024年11月12日）



048

## 小幡演習場の境界柱・塹壕

● 軍事施設

所在地：名古屋市守山区小幡（名古屋市等）

「陸軍省所轄地」銘の石製境界柱4基、長塚古墳に塹壕が残る。4基の石製境界柱のうち守山区役所近くの喫茶店敷地内の1基が「陸軍省所轄」銘。聞き取り調査によると、交差点近くから移設したとのこと。県営小幡緑地公園沿いの2基は「陸軍省所」「陸軍」の文字から下が埋まっている。小幡緑地内の1基は「陸軍省所轄地」と確認でき、上部に赤い塗料が塗られている。

長塚古墳墳丘には、演習の際に掘られた3箇所の塹壕跡のうち、北側の1つと思われる跡が確認された。（調査日：2024年11月16日）



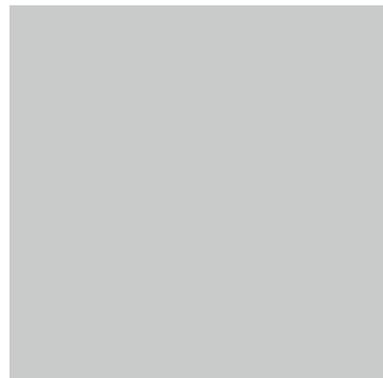
## 051 守山町立青年学校の奉安殿

▲ その他

所在地：名古屋市守山区廿軒家

昭和初期に建造された、木造入母屋造瓦葺、漆喰白壁土蔵造の奉安殿である。守山町立青年学校（現名古屋市立守山中学校）に設置されていた。戦後、青年学校校長により、神明社境内に移築された。拝殿の西側にあり秋葉神社として使用されている。（調査日：2024年9月2日）

【奉安殿】天皇陛下の御真影を保管する建物。当初は校長室などに金庫型の奉安庫が置かれたが、火災から守るため、寄付により学校の敷地に独立して建てられた。土蔵造、コンクリート造、木造など様々な形がある。戦後はGHQの指令により、解体撤去されたが、神社の社殿などに転用することは許可された。

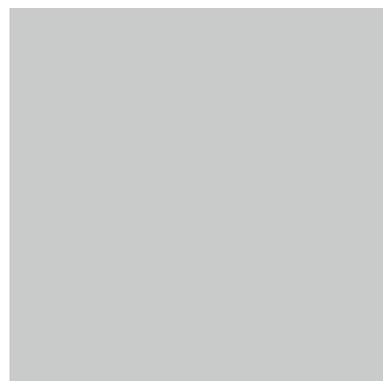


## 052 名古屋陸軍兵器補給廠守山分廠の境界柱

■ 軍需工場

所在地：名古屋市守山区森孝

石製境界柱で、地表部は一辺16cm、高さ30cm。名古屋陸軍兵器補給廠は兵器の貯蔵や補給を業務としており、守山にその分廠が置かれていた。境界柱は2基ある。1基は、名古屋市立森孝西小学校と2軒の民家の境にある。コンクリートブロックに挟まれた状態のため、文字の有無は不明。もう1基は個人宅敷地内にあるという。（調査日：2024年11月4日）

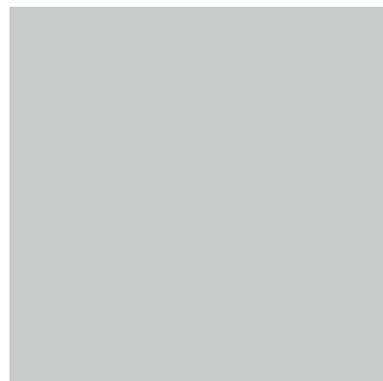


## 053 丹下町の被災常夜灯

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市緑区鳴海町

爆撃により上部宝珠が飛散したと伝えられる、街道沿いの石製常夜灯。丁字路の北側の三角地帯に「安産守護子安地藏大菩薩光」の標柱と共に置かれている。竿の正面に「秋葉大権現」、向かって右に「寛政四年□月」、左に「新馬中」、裏に「願主重因」と刻まれる。被災した宝珠は、現在修復されている。（調査日：2024年9月11日）



## 054 大高国民学校の奉安殿

▲ その他

所在地：名古屋市緑区大高町

昭和3年（1928）に建造されたコンクリート造切妻屋根の奉安殿である。正面上部には幾何学的な文様が装飾されている。終戦まで大高国民学校（現名古屋市立大高北小学校）に設置されていた。戦後、地中に埋められたが、平成9年（1997）名古屋市大高北消防団詰所新築工事中に発見され、八幡神社境内に移築復元された。中央には復元した金色の菊の紋章が、鉄製の扉には、消防倉庫で見つかった金色の菊の紋章が再び取り付けられた。現在、学区資料保管庫として使用されている。（調査日：2024年9月11日）



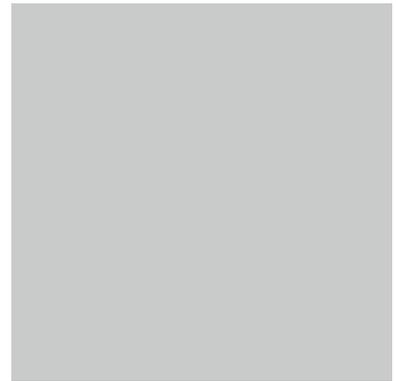
055

## 大高町の陣地壕

● 軍事施設

所在地：名古屋市緑区大高町

火上山の山中に円形タコツボ7基、方形壕13基、交通壕1基があったとされる。山全体が落ち葉に覆われており、遺構の残存は確認が困難。僅かに人工と思われる壕跡らしきものが2箇所のみ確認された。付近の民家で聞き取りを行ったが、陣地壕の存在自体が知られておらず、詳細は不明。(調査日：2025年1月29日)



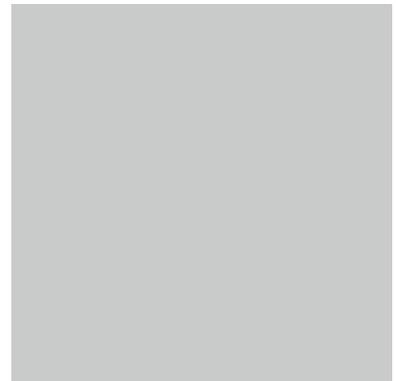
056

## 八事霊園の被災墓石

◆ 空襲・戦災

所在地：名古屋市天白区天白町大字八事裏山

八事霊園北西部の隆正寺・法蔵寺墓地は、かつて被災墓石が多数残るといわれていた。法蔵寺霊園においては「招心義忠居士」墓の向かって左側が大きく損傷し、「心」字の近くが円形に窪んでいる。また、頂上部から背面にかけて黒ずんでいることが確認された。一方、隆正寺の墓石は全て新しくなっており、被災墓石の存在は不明。(調査日：2024年10月30日)



059

## 犬山演習廠舎の境界柱

● 軍事施設

所在地：犬山市犬山字西丸の内(犬山市)

「陸軍用地」銘の石製境界柱2基で、現在は犬山市立犬山北小学校敷地内に移設したもの。1基は建てられた状態で、もう1基は抜かれて地面に寝かされた状態で現存。建てられた境界柱は「陸軍用地」と刻まれた面が背を向いている。抜かれて寝かされたものは「陸軍用地」面を上に向けてある。(調査日：2024年11月29日)



060

## 願入寺の梵鐘代替品

▲ その他

所在地：犬山市犬山字西古券

金属供出で失われた梵鐘の代替品で、高さが124cm、直径が73cmのコンクリート製。願入寺の門前の向かって右側の「阿弥陀如来 真宗大谷派 願入寺」の標柱の後ろに置かれている。見た目には大きな損傷はないが、撞座より下はひびが目立つ。釣り手部分は鉄筋で作られている。(調査日：2024年12月4日)

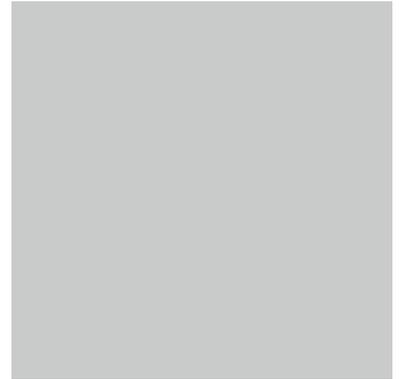


## 062 三菱重工業(株)楽田工場

■ 軍需工場

所在地：犬山市高根洞

三菱重工業(株)名古屋発動機製作所の疎開工場の一つである。昭和20年(1945)3月から山の西側から熊谷組、東側から岐阜地方施設部鉄道戦闘隊により掘削されたが、終戦となり未完成で終わった。東側壕口5箇所、西側壕口4箇所の坑道が掘られたほか、西側壕口前には仮設住宅(宿舍)が建設された。戦後、西側壕口は採石場となり滅失したが、東側壕口2箇所が残る。この東にも陥没した痕跡2箇所がある。その他、『楽田村史』掲載「西地区宿舍略図」の敷島町第二棟の東側便所、大和町第十棟西側の炊事場が残っている。(調査日：2025年1月21日)



## 067 小牧山南麓の忠魂碑

▲ その他

所在地：小牧市堀の内(小牧市)

旧小牧町出身英霊の顕彰のため、在郷軍人会小牧町分会の発意により、小牧町及び小牧町民の浄財で大正11年(1922)3月8日建立。小牧山の麓、小牧市役所に面した小高い場所に現存。自然石の土台の上に石製の台座を載せ、その上に銅製砲弾形の忠魂碑を設置。忠魂碑の設計は京都帝国大学工学博士の穂積善三郎、製作は大阪陸軍砲兵工廠。日清戦争・日露戦争・満州事変・日中戦争・太平洋戦争に殉じた旧小牧町出身の戦没者1,380余名の霊が祀られている。「忠魂碑」の揮毫は陸軍大将伯爵奥保鞏による。平成16年(2004)に碑の修理が行われた際に、小牧市内出身の全戦没者が再調査されて新たに合祀された。(調査日：2025年7月24日)



## 068 旧制小牧中学校の御真影奉掲所

▲ その他

所在地：小牧市小牧(愛知県)

旧制小牧中学校(現県立小牧高等学校)の、鉄筋コンクリート造平屋建の講堂の、内部正面奥に設置されていた奉掲所。正面はアーチ型で壁面には装飾が施されている。前面上部に小さい穴が数箇所開いており、またアーチ部分の裏側には御真影を掲げるための金具が数点確認された。(調査日：2024年12月10日)



## 069 渡辺錠太郎銅像

▲ その他

所在地：小牧市小牧

渡辺錠太郎は小牧町(現小牧市)の和田家に生まれ、後に岩倉町(現岩倉市)の渡辺家の養子となった。教育総監兼軍事参議官として在職中の昭和11年(1936)2月26日、東京の自宅において二・二六事件の犠牲となった。小牧出身の郷土の英雄として、小牧町長らの発起により昭和14年(1939)2月に小牧山東登山口に銅像が建立された。背面に陸軍大将松井石根の撰及び書による銅板銘がある。上半身像で左手に軍刀を持ち、台座に載る。台座正面には「渡辺大将」とある。題字は徳川義親による。戦後、生家である和田家の菩提寺である西林寺に移され、本堂の右手前に現存する。(調査日：2025年9月12日)



070

## 「御野立聖蹟」碑、「御統監之址」碑



その他

所在地：小牧市堀の内（小牧山山頂）、岩崎獨山（岩崎山山頂）（小牧市）

昭和2年（1927）11月に実施された陸軍特別大演習において昭和天皇が行幸、統監されたことを記念して2基の石碑が建てられた。それぞれ高さ3.5m、幅1mほど。「御野立聖蹟」碑は小牧山山頂に現存。自然石を集めた土台の上に台座を載せ、石碑を設置。碑文は参謀総長陸軍大将鈴木荘六の書。裏面には「昭和二年十一月十八日 天皇陛下親閲陸軍特別大演習 臨御此古城址覽小牧合戦遺蹟」と刻まれている。「御統監之址」碑は岩崎山山頂の林の中に現存。碑文は「御野立聖蹟」碑同様に参謀総長陸軍大将鈴木荘六の書。方角柱の石碑の背面には碑が建立された経緯及び、昭和3年（1928）4月29日の建立日が刻まれている。計測値は2023年度基礎調査による。（調査日：2025年7月24日）



072

## 名古屋陸軍造兵廠西山分廠の建造物



軍需工場

所在地：春日井市西山町（国）

陸軍造兵廠鷹来製造所の第六工場にあたり、製造工程における火薬爆発の危険を避けるため、実包工場より離れた西山地区に建設された。現陸上自衛隊春日井駐屯地に所在する。鉄筋コンクリート造の建物6棟とトンネル1箇所を確認。建物は倉庫等として使われているが、経年劣化で外装が剥がれている箇所がある。トンネルは現在は土壘が失われており、物置として利用されている。（調査日：2024年12月10日）



074

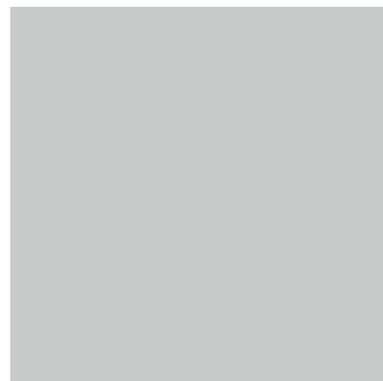
## 名古屋陸軍造兵廠鷹来製造所の本館



軍需工場

所在地：春日井市鷹来町

陸軍造兵廠鷹来製造所は、昭和16年（1941）5月16日に完成し、九九式七・七耗小銃弾実包や風船爆弾の気球を製造した。本館は、鉄筋コンクリート造、地下1階地上4階建である。現在は名城大学春日井キャンパス（農学部付属農場）の本館として使用されている。近年改修工事が行われ、令和4年（2022）3月に竣工式が挙行された。（調査日：2025年1月19日）



075

## 篠木国民学校の奉安殿



その他

所在地：春日井市大泉寺町山畑

昭和15年（1940）建造の木造入母屋造瓦葺、板張壁、扉は観音開きの奉安殿である。懸魚には「篠木」と刻まれている。終戦まで篠木国民学校（現春日井市立篠木小学校）に設置されていた。戦後退休寺境内に移築され、戦死者慰霊堂として使用されている。（調査日：2024年9月27日）



## 076 鳥居松国民学校の奉安殿

▲ その他

所在地：春日井市八田町

昭和13年(1938)建造の木造千鳥破風付瓦葺の奉安殿である。鳥居松国民学校(現春日井市立鳥居松小学校)から泰岳寺へ移築された奉安殿(080:鳥居松国民学校の旧奉安殿)の後継として新築され、同校に置かれていた。屋根の千鳥破風に「鳥」と松の枝の木彫り装飾がある。現在は八田神社境内の社殿奥の切石積み基壇の上に移築されている。(調査日:2024年9月27日)



## 077 陸軍小牧飛行場の作戦室

● 軍事施設

所在地：春日井市中町

小牧飛行場は名古屋地区防衛のために建設された。作戦室は隣接する正念寺の境内に造られた。コンクリート造、東西約20m、南北約10m、半地下式で、現在は民家の一部となっている。部屋内部の柱や梁はペンキの剥がれはあるものの、大きな破損は見られなかった。(調査日:2025年1月19日)



## 078 鳥居松憲兵分隊の境界柱

● 軍事施設

所在地：春日井市鳥居松町

「陸軍」銘の石製境界柱4基が鳥居松憲兵分隊跡地に残る。戦後春日井警察署が置かれたが移転し、現在は食品スーパー「ヤマナカ鳥居松店」となっている。敷地の四隅にあり、うち3基はコンクリート壁が一部に被さっている。表面摩耗により、文字は判読しにくい。(調査日:2024年9月27日)



## 079 名古屋陸軍造兵廠鳥居松製造所

■ 軍需工場

所在地：春日井市王子町

昭和14年(1939)5月、千種兵器製造所の鳥居松工場として開設され、同年7月鳥居松製造所として独立した。九九式小銃、九四式拳銃、一式短剣などを製造していた。504号棟、412号棟、実包置場、変電所、鉄製トラス小屋組、鉄道門と中央本線からの引込線が残る。このほか射撃場外壁があるが、倒壊を防ぐため0.3m程度上部を撤去した。現在王子製紙(株)の敷地であり、射撃場外壁は塀として使用されている。(調査日:2025年2月6日)



080

## 鳥居松国民学校の旧奉安殿



その他

所在地：春日井市上条町

木造切妻造瓦葺土蔵風の奉安殿である。左右の壁の上部に換気口がある。当初鳥居松国民学校（現春日井市立鳥居松小学校）に設置されたが、昭和13年（1938）に泰岳寺境内の泰富稲荷神社社殿の近くに移築された。経年劣化により壁にひびが入っている。（調査日：2024年9月27日）



081

## 小野国民学校の奉安殿



その他

所在地：春日井市松河戸町村中（春日井市）

昭和15年（1940）建造の木造入母屋造瓦葺、板張壁の奉安殿である。総檜造で、破風には松と「小野」の装飾が付いている。小野国民学校（現春日井市立小野小学校）に設置されていたが、その後小野道風公生誕地に移築された。現在は、小野社社殿として使用されている。（調査日：2024年9月27日）



082

## 陸軍小牧飛行場の飛行機用掩体



軍事施設

所在地：春日井市春日井上ノ町・中町（国）

陸軍小牧飛行場は、昭和19年（1944）2月1日に名古屋地区防衛のため完成した。小型機を防護するための飛行機用掩体は、20基構築されたが、現在4基残る。1基は覆っていた盛土や草がなくなり、コンクリートが剥き出しの状態である。残り3基は3連の掩体という形である。航空自衛隊小牧基地の倉庫として使用されている。（調査日：2025年1月29日）



083

## 名古屋陸軍兵器補給廠高蔵寺分廠の建造物



軍需工場

所在地：春日井市高座町・玉野町（国）

名古屋陸軍兵器補給廠高蔵寺分廠は高射砲や戦車砲用弾丸に火薬を詰めて安全に保管する施設で、昭和16年（1941）に開設された。木造の有蓋倉庫や覆土式弾薬庫2基、兵器庫、国旗掲揚塔の台座が残る。台座裏の銘板は、かなり劣化が進んでいる。戦後、アメリカ軍により接收されたが、昭和33年（1958）返還され、航空自衛隊高蔵寺分屯基地として使用されている。（調査日：2025年1月29日）



## 084 養願寺の梵鐘代替品

▲ その他

所在地：一宮市木曾川町里小牧字寺東

花崗岩製の梵鐘代替品で、直径61cm。梵鐘の表面に「田中」ほかの字が陰刻されている。墓地の中央部に天地逆転して置かれ、香炉に転用されている。(調査日：2024年11月29日)



## 088 正瑞寺の梵鐘代替品

▲ その他

所在地：一宮市萩原町萩原

花崗岩製の梵鐘代替品で、昭和18年(1943)3月に造られた。高さ100cm、直径88cm。銘文は経年劣化が進んでいるが「南無阿弥陀佛」「昭和十八年三月」「□□忠三郎 戸田武助」(寄進者か)などと陰刻されている。この代替品は、重量があり過ぎて鐘楼に吊るすことなく終戦を迎えた。(調査日：2024年11月27日)



## 089 徳善寺の帰還喚鐘

▲ その他

所在地：稲沢市大塚北

高さ38cm、直径30cmあり、鐘を打つ撞座部分に穴があいている。穴の大きさと形は左右で異なっている。ほかにも数箇所へこみや歪みがある。銘文には「中畷郡大塚邑 法昇山徳善寺 寄進 (寄進者11名略) 明治十一寅年」と記されている。

爆撃による破損かは不明と伝わる。意図的に切断されていることから、金属供出後に材質を調べるために切り取られたが、溶解されることなく戦後戻されたのではないと思われる。(調査日：2024年11月7日)



## 090 陸軍清洲飛行場の建造物

● 軍事施設

所在地：稲沢市増田東町(稲沢市)

戦後、清洲飛行場(第III部 陸軍清洲飛行場の作戦室(p.41,42)を参照)から移築された木造平屋建ての建物。現在は区の倉庫として使用されている。スレート屋根、トタン外壁に改修されているが、柱などの部材は当時のままのこと。入口は2箇所ある。経年劣化により内壁は剥がれ落ち、外壁のトタン板もさび付いている。(調査日：2024年11月7日)



093

## 七宝国民学校の御真影奉掲所



その他

所在地：あま市七宝町桂角田（あま市）

現あま市立七宝小学校の、木造平屋建講堂内の正面に、御真影奉掲所があったとされる。講堂は昭和11（1936）年建造。（調査日：2024年11月14日）



094

## 津島神社の防空壕



その他

所在地：津島市神明町

昭和17年（1942）以降に造られた、幅2.5m、奥行き5.5m、高さ1.8mのコンクリート造地下防空壕。津島神社本殿裏にある。空襲から神社の宝物を守るために造られたもので、コンクリート製の蓋で現在は入口が塞がれている。補強のためか周囲もコンクリートで舗装されている。（調査日：2024年9月26日）



098

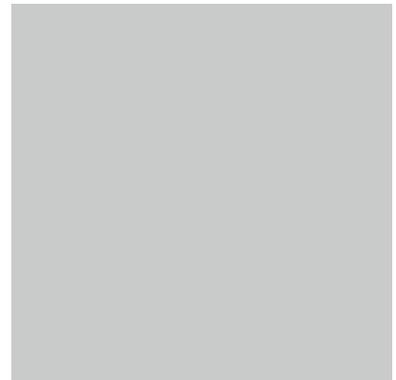
## 本地ヶ原陸軍演習場の境界柱



軍事施設

所在地：尾張旭市緑町緑ヶ丘

「陸軍省所轄地」銘の石製境界柱である。正面と左側面に銘が刻まれている。本地ヶ原陸軍演習場は、明治の末年に設置され、終戦まで使用されていた。境界柱は、本地ヶ原神社の境内の隅に「元白山神社」銘の石製碑と共に残る。（調査日：2024年9月26日）



099

## 本地ヶ原演習場廠舎の基礎・境界柱



軍事施設

所在地：尾張旭市緑町緑ヶ丘・南新町

本地ヶ原陸軍演習場廠舎の基礎と思われるL字型のコンクリートが民家の庭にある。また、石製の境界柱も残る。もとは「陸軍所轄地」という銘があったが、現在は擦り減っていて確認できない。（調査日：2024年9月26日）

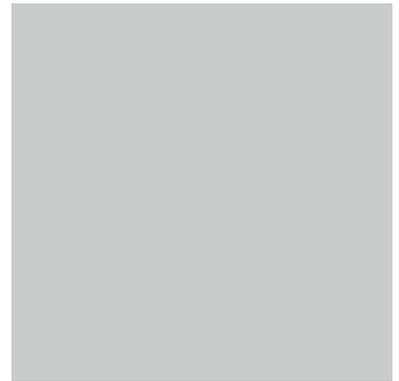


## 100 本地ヶ原飛行場の飛行機用掩体基礎

● 軍事施設

所在地：尾張旭市南栄町黒石

本地ヶ原飛行場は、昭和10年代初期に、本地ヶ原陸軍演習場内に建設された。幅20m×奥行10mほどの規模を有した飛行機用掩体コンクリート基礎と思われる遺構が残存している。(調査日：2024年10月15日)



## 106 幡中町の防空壕

▲ その他

所在地：瀬戸市幡中町

丘陵の麓にある集会所の南側斜面に素掘りの横穴2箇所と、そこから少し離れて2箇所の横穴が残る。開口部は、幅0.6～0.9m、高さ1.5mある。(調査日：2024年10月15日)



## 108 五色園の楠公父子像

▲ その他

所在地：日進市岩藤町一ノ廻間

花崗岩製の楠木正成・正行父子像。胡坐を組んで座る楠木正成石像とそれに向かい手をついて対面する正行石像で、両者は4mほど離れている。『太平記』の楠木父子が訣別する「桜井の別れ」の場面を再現したものである。「生きて忠義の心を忘れず、戦うよう」諭した逸話で、戦時下に国威発揚のために作られた楠公父子像の一つ。(調査日：2024年11月17日)



## 111 日進変電所の防空壕

▲ その他

所在地：日進市赤池町北山

上部がかまぼこ形のコンクリート造防空壕である。内部は幅0.8m、長さ7mで、コンクリート厚0.5～0.8m。両端に2箇所ずつ、計4箇所の出入口を備える。日進変電所は、発電所から送られてくる電力の電圧を下げ、名古屋の大小軍需工場などへ送電する重要な施設で、昭和11年(1936)1月に開設された。防空壕は昭和17年(1942)4月18日の名古屋初空襲以後に造られた。変電所の北側の道沿いに残っており、内部には土砂や水が溜まっている。計測値は『愛知県史』及び『愛知の戦争遺跡ガイド』による。(調査日：2024年11月4日)



所在地：東海市富木島町（東海市）

知多飛行場は、昭和19年（1944）に、三菱重工業（株）により建設された。滑走路を踏襲しているとされる、葭野交差点から新道才交差点までの道路と、その道路の東側に平行する道路がある。掩蓋は東海市郷土資料館に保管されている。（調査日：2024年10月27日）



所在地：知多市八幡字荒古後

尾張八幡神社の境内地に明治～昭和初期の忠魂碑等が現存する。左から順に「殉國之烈士」「忠魂碑」「従軍記念碑」「日露戦役記念碑」が並ぶ。「殉國之烈士」は表に従軍者氏名が、背面に「昭和三年秋 御大典記念 帝国在郷軍人會八幡町分會建之」と刻まれる。「忠魂碑」は表左側に「元帥陸軍大将伯爵奥保鞏書」、背面に「大正十五年七月建之 八幡町尚武會」と刻まれる。「従軍記念碑」は表に従軍者氏名と「明治三十一年一月」、背面に「八幡村中」と刻まれている。「日露戦役記念碑」は表左側に「第三師団長 大庭二郎」、背面に従軍者氏名が刻まれており、大正4年（1915）11月に建てられた。一部の石材には、古墳の天井石が使われたと伝えられている。（調査日：2025年9月4日）



所在地：知多市緑町（知多市）

陶製で高さは74.3cm。知多市立新田小学校（旧八幡第四尋常小学校）にあったものだが、関係者から寄贈を受けた知多市歴史民俗博物館で現在保管されている。背面、右側の腰から太ももにかけてひび割れが生じている。左手に軍刀を持っているが、現在では柄の部分を残して刀身は欠損している。また頭上には大きな穴がある。計測値は2023年度基礎調査による。（調査日：2025年9月4日）



所在地：知多市原

日露戦争戦役記念として明治38年（1905）9月に建てられた。

神明社の参道から拝殿に向かってこの鳥居。石鳥居で参道入口に向かって左側の柱に「日露戦役記念 氏子中」、右側の柱に「明治三十八年九月建之」とある。柱と貫の間に楔はなく、塗り直したような跡がある。笠木の断面は縦長の五角形で上部がわずかに山形になっている。笠木と貫の角にそれぞれ少し欠けたような跡が数箇所見られるが原因は不明。（調査日：2025年9月4日）



## 121 忠魂碑・記念碑(竹ヶ鼻)

▲ その他

所在地：知多市佐布里字竹ヶ鼻（知多市）

西南戦争、日清戦争、日露戦争の3基の忠魂碑・記念碑。右が「明治十年役従軍記念碑」で、表左側に「従五位南部辰丙謹書」、背面に「明治十年三月十二日肥後國山鹿郡鍋田村ニ於テ戦死」と刻まれる。中央が（日清戦争の）「記念碑」で、表に漢文で日清戦争について記し、従軍者氏名と「明治廿九年八月（中略）徳川義礼篆額」と刻まれ、背面に「愛知県知多郡佐布里村工兵會員」とあり、発起人の氏名が刻まれる。左が「日露戦役紀念」碑で、表に従軍者氏名が、背面に「大正三年五月 八幡村大字佐布里尚武會建之」と刻まれる。昭和53年（1978）、多度神社より佐布里ダム記念館に移築された。（調査日：2025年9月4日）



## 122 忠魂碑・記念碑(太郎坊)

▲ その他

所在地：知多市岡田字太郎坊（知多市）

知多市立岡田小学校の目の前、池に架かる橋を渡った場所に、3基の石碑が建てられている。中央には、昭和4年（1929）に建てられた「忠魂碑」（揮毫は陸軍大将井上幾太郎書）がある。背面には日中戦争・太平洋戦争の犠牲者名が追刻されている。忠魂碑に向かって左側には日清戦争に従軍した岡田町民の顕彰碑である「千秋之鏡」、右側には日露戦争に従軍した岡田町民の顕彰碑である「烈士之光」という2つの顕彰碑が建てられている。背面には従軍者の氏名が刻まれる。共に明治39年（1906）4月1日に建てられ、愛知県知多郡長 上野直次郎撰・愛知県属 大島徳太郎による書で、篆額は「千秋之鏡」が愛知県知事 深野一三、「烈士之光」が陸軍中将 松永正敏による。（調査日：2025年9月4日）

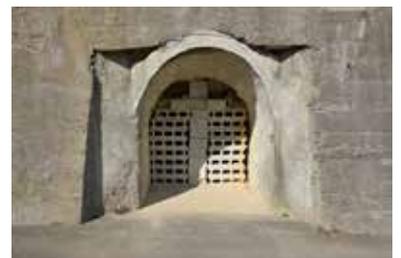


## 123 岡田の防空壕(宝ノ脇)

▲ その他

所在地：知多市岡田字宝ノ脇

コンクリートで覆われた崖の側面を方形に掘り込んだ防空壕。入口はアーチ状にされている。現在は入口にコンクリートブロックを積んで塞いでおり、内部の様子はうかがえない。入口の両側に1箇所ずつ金具が取り付けられているが入口がどのようなになっていたかは不明。（調査日：2025年1月22日）



## 124 岡田の凱旋橋

▲ その他

所在地：知多市岡田字高見（知多市）

日長川に架けられた、「凱旋橋 / がいせんばし」「明治三十八年九月」銘の石橋。銘は明治37・38年（1904・05）の日露戦争の戦勝記念として親柱に彫られた。解説板によると、出征兵士は町長を先頭にした行列と共にこの橋を渡って古見駅（現名鉄常滑線）に向かったという。（調査日：2024年10月27日）



125

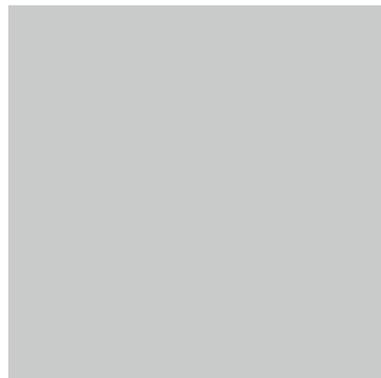
## 岡田の防空壕(高見)



その他

所在地：知多市岡田字高見

隣組「開戸東組」築造の民間防空壕。民家のすぐ隣に開口している。丘陵崖面に掘られているが、現在は土砂が詰まり内部の様子は不明。解説板には、昭和18年(1943)に開戸東組の住人が自ら人力で掘った壕で、2箇所の入口がありU字型に繋がっていたとある。コンクリートは劣化が始まっている。向かって右側に金具が1点だけ取り付けられているが、入口がどのようになっていたかは不明である。(調査日：2024年10月27日)



126

## 岡田の防空壕(中谷)



その他

所在地：知多市岡田字中谷

総延長約20mの「コ」の字型の防空壕。片側は土管を用いた明り取りもしくは空気穴となっている。入口から約5mは昭和30年代にコンクリートで補修された。個人宅脇の斜面に作られており、重厚な扉が取り付けられているが、後に取り付けられたものと思われる。コンクリートの底も付いている。計測値は2023年度基礎調査による。(調査日：2024年12月18日)



127

## 忠魂碑・記念碑(大口)



その他

所在地：知多市新舞子字大口(知多市)

盛り土の上に4基の石碑が並んでおり、中央に当時の旭村、旭町の日露戦争及び太平洋戦争の忠魂碑が建立され、その両脇に個人の顕彰碑が配されている。向かって左側が日露戦役記念碑で、右側が太平洋戦争の殉国碑。両方とも不定形の石碑で、日露戦役記念碑は表側左に「愛知県知事 正四位勲二等深野一三題」とあり、背面には従軍者氏名と「明治四十一年五月建之 旭村尚武会」が刻まれる。殉国碑は昭和28年(1953)に建立されたものである。(調査日：2025年9月4日)



131

## 萩の防空壕



その他

所在地：阿久比町萩字曾根

素掘りの横穴防空壕。崖面に開口している入口を1箇所確認。道路に面しているため前面に立入できないよう柵をつけている。全体的に雑草で覆われており、見つけにくい状態。入口付近は瓦礫が落ちており、奥の方は全く見えない。(調査日：2024年12月23日)



## 133 東龍寺の梵鐘代替品

▲ その他

所在地：常滑市大野町

高さ95cm、直径68cm、コンクリート製の梵鐘。かなり傷んでおり、現在は本堂奥の五智如来が並ぶ左側に東屋を建てて置かれている。東屋の奥に「コンクリート製梵鐘の由来」という解説板が立てられている。解説板によると、戦後復興期に梵鐘の新造を試みたが、檀家総代の賛同を得られなかった。そのため、梵鐘が新造されて代替品が不要となった法通寺のコンクリート梵鐘を譲り受けて吊るしたという。(調査日：2024年10月17日)



## 134 正住院の機銃弾跡

◆ 空襲・戦災

所在地：常滑市保示町

昭和20年(1945)8月4日、米軍のグラマン戦闘機による機銃掃射により、本堂の丸柱が受けた弾痕。弾丸は本堂扉上部を貫通した。弾痕のすぐ脇には解説が書かれた小板が打ち付けられている。これによると、当時正住院には船舶部隊約150名が駐屯していたという。(調査日：2024年10月17日)



## 135 小鈴谷防空監視哨

▲ その他

所在地：常滑市大谷字高砂(常滑市)

小鈴谷防空監視哨は、高砂山(現高砂山公園)南端の頂上付近に設置された。哨舎のコンクリート基礎、防空壕の開口部2箇所と付属する交通壕(通路)がある。(調査日：2024年10月27日)

【防空監視哨】来襲する飛行機をいち早く発見し、関係機関(警察署)に報告する役割を持つ。在郷軍人や16～19歳の青年学校生などが勤務した。



## 136 望洲楼の防空壕

▲ その他

所在地：半田市亀崎町

料亭望洲楼の建物の地下にある、コンクリート造防空壕である。平面形はL字形をしており、壁面に衣類を掛けるフックが取り付けられている。当時は腰掛が付けられていた。防空壕の奥は、垂直に孔があけられている。緊急時の脱出口である。

望洲楼は、第二次世界大戦中、中島飛行機(株)半田製作所の宿舎となっており、その折に掘られた。現在は物置として使用されている。(調査日：2025年1月22日)



138

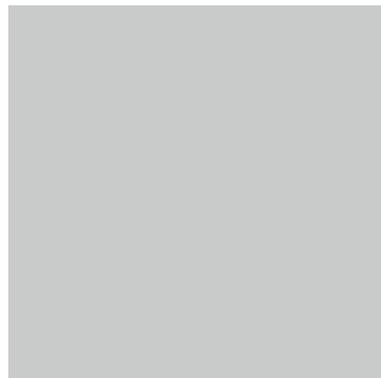
## 中島飛行機(株)の滑走路・駐機場

■ 軍需工場

所在地：半田市中午町（半田市等）

コンクリート造滑走路の端に設けられた駐機場（エプロン）跡や側溝が残る。駐機場は円形を呈しており、その内側には民家が建っているが、外周が道として使われている。

中島飛行機（株）半田製作所は、昭和17年（1942）8月に建設が始まり、昭和18年（1943）12月に生産を開始した。滑走路は、ここで製造した飛行機を各地に輸送するために設置された。エプロンから北西―南東方向に滑走路があり、現在道路として使用されている。このほか、東に約10m離れた畑の中に道路跡のような痕跡がある。（調査日：2024年11月10日）



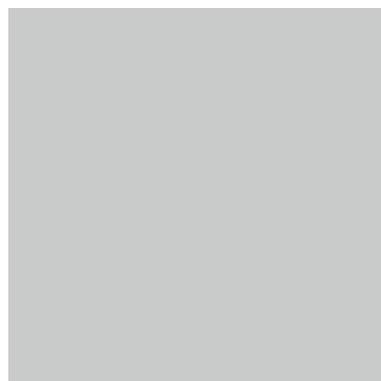
141

## 亀洲の被災墓石

◆ 空襲・戦災

所在地：半田市瑞穂町

共同墓地内に存在する昭和20年（1945）7月24日の半田空襲で被災した墓石。破損した墓石は複数存在しているが、破損墓石の全てが当時破損したものかは不明。『愛知県史』に掲載された墓石を、今回の調査で照合することは難しかった。（調査日：2024年10月27日）



145

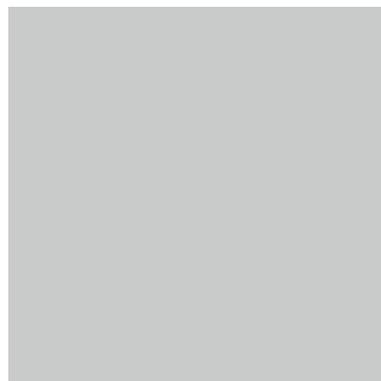
## 野間前進監視哨

● 軍事施設

所在地：美浜町野間字中新田

敵機の情報により早く入手するために、各地に監視所が設置された。前進監視哨は陸軍の高射砲部隊から派遣された兵が行ったもので、防空監視哨は在郷軍人や青年学校生など民間が行ったものである。

野間前進監視哨は民家を借用して設けられたもので、木造二階建民家の2階を宿舎とし、庭に監視用の櫓を建てたという。現在は櫓はなく、民家が残っている。（調査日：2024年11月10日）



148

## 宝積院の土壁の鐘楼

▲ その他

所在地：南知多町内海字北向

本堂に向かって右手前、手水場の前に建つ鐘楼。戦時中に梵鐘を供出したのち、昭和20年代初期に強風から鐘楼を守るために土壁で囲われた。現在は板で覆われているが、内部は土壁が所々落ち、天井板も割れている状況。鐘を吊った金具は健在。現在は倉庫として使用されている。（調査日：2024年8月22日）

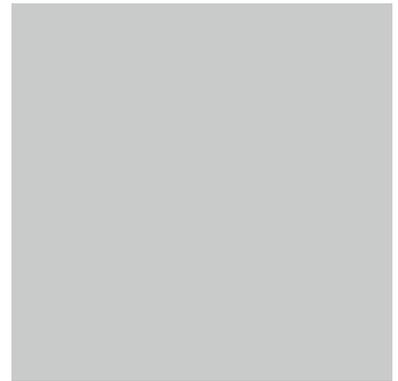


## 149 中之院の軍人像

▲ その他

所在地：南知多町山海土間

歩兵第六連隊関係者の戦死者像である。名古屋市千種区月ヶ丘三丁目の大日寺月ヶ丘墓地に建てられていたが、墓地が廃止されたため、平成17年（2005）11月に100余体のうち92体を移設した。本来、像は墓碑の上に建てられていたが、一部を除いて軍人像のみが移設された。コンクリート造の軍人像は、倉永辰治連隊長の胸像ははじめ3体を除き、浅野祥雲氏（コンクリート像作家）の手により造られた。太平洋戦争中材料不足により、浅野氏の手を離れ石像となった。（調査日：2024年8月22日）

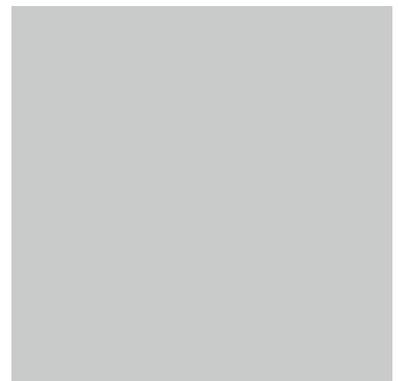


## 151 片名特攻基地の地下壕

● 軍事施設

所在地：南知多町片名

海軍の水上特攻兵器「震洋」の格納壕として昭和20年（1945）に掘られたコンクリート造の地下壕である。第四特攻戦隊第十三突撃隊第六震洋隊の配置が予定されていたが、部隊の配置が変更となり未配置のまま終わった。国道247号線沿いの小山の裏側に存在し、周りは樹木が生い茂って鬱蒼としている。内部は奥の方で土砂崩れを起こしている。（調査日：2024年8月22日）



## 152 カノン砲の弾薬庫

● 軍事施設

所在地：南知多町大字篠島汐味

間口・奥行きとも1間、高さ約2mの煉瓦造の建物2棟。戦時中にカノン砲が2門あったといわれ、その弾薬庫ではないかと推定されているが確証はない。篠島最南端の太一岬の山中に所在。2棟とも屋根はなく、周りは木が茂っており、倒れた幹などが寄りかかっている状態。1棟の正面に土手状のものがあるが人工物か否かは不明。もう1棟は正面を除く三面がモルタルで塗られている。また、付近にコンクリート製の基礎などが点在するが、関連する遺構かは不明。計測値は2023年度基礎調査による。（調査日：2025年2月7日）



## 153 稲橋防空監視哨

▲ その他

所在地：豊田市稲武町馬野

標高889mの城ヶ山山頂、南北朝時代築城の中世山城の「夏焼城本曲輪」に当たる位置に、哨舎・便所のコンクリート基礎を確認。昭和17年（1942）に当時の在郷軍人や警防団員が勤労奉仕で完成させたという。（調査日：2024年12月5日）



154

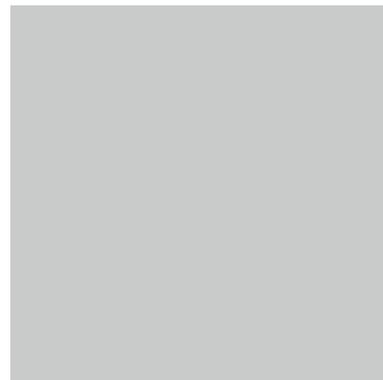
## 阿摺中部国民学校の乃木希典・東郷平八郎像



その他

所在地：豊田市大蔵町横手山

終戦まで阿摺中部国民学校（現豊田市立大蔵小学校）に建てられていた。花崗岩製で高さ170cmの乃木希典像と、高さ157cmの東郷平八郎像である。乃木像は軍刀に両手を添えている。東郷像は右手に双眼鏡、左手に軍刀を持つ。現在、観世音寺にあり、戦艦陸奥の鉄材を納めた祠をはさんで左側に乃木像、右側に東郷像が立つ。（調査日：2024年10月28日）



155

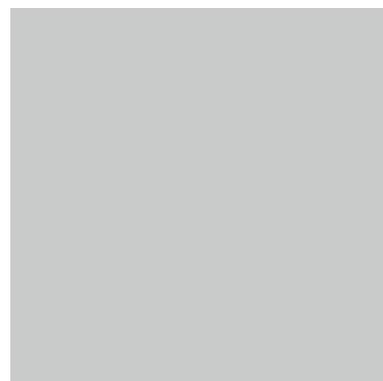
## 阿摺南部国民学校の奉安殿



その他

所在地：豊田市新盛町深沼（豊田市）

木造切妻屋根、土蔵造の奉安殿である。阿摺南部国民学校（現豊田市立新盛小学校）に設置されていた。現在も新盛小学校校庭で倉庫として使用されている。切り石を並べた基壇の上に建ち、当初は瓦葺であったが、屋根はトタン葺、壁もトタンで囲んでいる。（調査日：2025年2月10日）



157

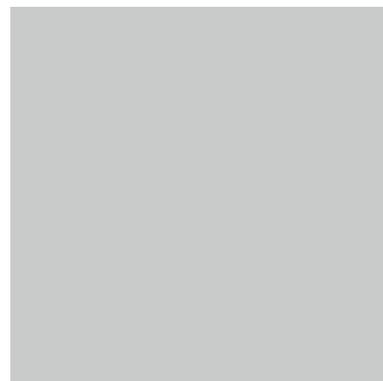
## 足助国民学校の御真影奉掲所



その他

所在地：豊田市足助町今岡（豊田市）

昭和13年（1938）に建設された足助国民学校（現豊田市立足助小学校）の講堂に設けられた。舞台奥壁の中央が漆喰塗の門型に装飾され、その壁を御真影奉掲所とした。御真影は、講堂で儀式を行う際、奉安殿や奉安庫から移され掲げられた。木造平屋建ての講堂は窓や入口などが適宜補強され、現在も使用されている。（調査日：2025年2月20日）



158

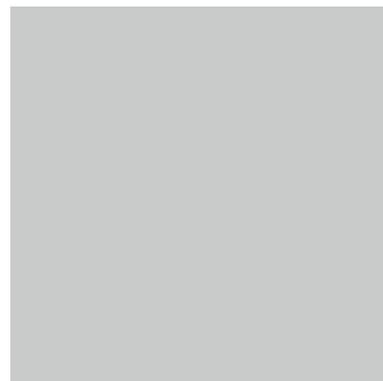
## 幸海国民学校の乃木希典像



その他

所在地：豊田市幸海町下御堂下切

昭和13年（1938）3月に地元の個人より寄贈され、幸海国民学校（現豊田市立幸海小学校）に設置された。花崗岩製で高さ163cmある。自然石の上に石製の台座を置き、その上に軍刀に両手を添えて立つ。台座の前面には「□□記念」と彫られている。終戦後に埋められたが、その後掘り出され、小学校に隣接する忠魂場の「殉国戦士之碑」の左隣に移設された。（調査日：2024年9月10日）

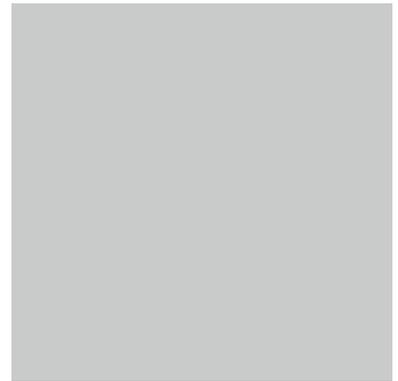


## 159 坂上町のB29墜落地

▲ その他

所在地：豊田市坂上町空田

昭和20年(1945)1月3日、B29が戦闘機「飛燕」に衝突されて墜落した。墜落地には、「太平洋戦争 米軍機 B29 墜落地 昭和20年1月3日 梶立の山林」の看板が道沿いに掲げられている。左手の石段を上ると「米軍機 B29 墜落 昭和20年1月3日ここに落ちる」と書かれた木札と案内・紹介用立看板と「B29 友好碑」が置かれている。(調査日：2024年10月25日)



## 160 滝脇国民学校の乃木希典像

▲ その他

所在地：豊田市林添町東トウモ

終戦まで滝脇国民学校(現豊田市立滝脇小学校)に建てられていた。砂岩製で高さ115cmある。軍刀に両手を添えているが、軍刀の下部は欠損している。現在国道301号線沿いの忠魂場に慰霊塔と共に置かれている。(調査日：2024年10月25日)



第IV部

## 161 岡崎海軍航空隊基地

● 軍事施設

所在地：豊田市福受町・樹塚西町南山ほか

昭和19年(1944)、第一～第三岡崎海軍航空隊が豊田・岡崎・安城にまたがる地域に設立された。現在、第三岡崎航空隊基地の格納庫・兵舎・倉庫が移築されて、野田味噌商店の味噌蔵として使用されている。移築の際に改造されており、格納庫か兵舎の区別や当時の状態がどの程度残されているのかは不明である。他に豊田市域には送水ポンプ場が残るほか、「海軍用地」銘石製境界柱、排水溝の蓋、第二海軍航空隊基地の海軍神社の手水鉢が各所に移設されている。また、安城市域には第一岡崎海軍航空隊基地の防空監視塔(No.194)が移設されている。(調査日：2024年11月4日、2025年1月17日)



## 162 名古屋海軍航空隊基地

● 軍事施設

所在地：豊田市浄水町、貝津町(国等)

名古屋海軍航空隊基地の営門、コンクリート造の通信壕・送信所と推定される壕、防空壕の一部、機銃座などが残る。この基地は、昭和14年(1939)3月に愛知時計電機(株)の飛行性能試験地として造成された飛行場である。翌年海軍に買収され、昭和17年(1942)4月に名古屋海軍航空隊となった。(調査日：2025年1月17日)



163

## 大覚寺の梵鐘代替品



その他

所在地：みよし市打越町

コンクリート製の梵鐘代替品で、高さ75cm、直径50cmある。現状ではコンクリートにひびが入り、縁が欠けている。銘文はない。鐘楼堂のバランスを保つために、供出された梵鐘に代わり、昭和22年（1947）頃まで吊り下げられていた。現在は、境内の駐車場脇に「大覚寺の鳴らざる鐘」という解説板と共に置かれている。（調査日：2024年9月26日）



164

## 依佐美送信所



軍事施設

所在地：刈谷市高須町（刈谷市）

依佐美送信所は、戦前の対欧無線の拠点として建設され、昭和4年（1929）から操業し、昭和16年（1941）からは日本海軍の施設として使用された。昭和25年（1950）に米軍に接収、平成6年（1994）に返還され、後に鉄塔や建物は撤去された。鉄塔跡地に、基礎コンクリートが残っている。



165

## 名古屋陸軍兵器補給廠知立支所



軍需工場

所在地：知立市西町神田

養正館は明治19年（1886）、明治用水連合水利土功会の事務所として建築された。その後、大正3年（1914）に事務所が安城町に移ると、私立愛知工芸学校などが建物を使用したが廃校後、知立神社に移築された。昭和19年（1944）、兵器や食料の保管場が知立中心となり、知立神社境内の養正館が名古屋兵器補給廠知立支所となった。現在は老朽化し、周囲を鉄骨で支えられている。（調査日：2024年10月2日）



166

## 忠義護邦家



その他

所在地：安城市里町森

不乗森神社境内、社殿に向かう参道の右側にある。昭和6年（1931）10月、里町出身の英霊の顕彰のため、里町尚武会の発意で建立された。石垣の基壇上のコンクリートブロックの台座に載る。方角柱の碑の最上部が砲弾形になっている。台座の正面に陸軍の五芒星が施されている。「忠義護邦家」の揮毫は「陸軍大臣南次郎書」とある。台座正面にはプレートが埋め込まれている。台座の周囲には玉垣が巡らされている。（調査日：2025年8月29日）



## 167 安城第五尋常小学校の奉安殿の玉垣

▲ その他

所在地：安城市今本町（安城市）

安城市立安城北部小学校校庭南隅の築山に、旧安城第五尋常小学校の奉安殿の花崗岩製玉垣が1個だけ残存している。昭和15年（1940）2月10日の落成。側面に貫通する穴があり、玉垣の頭部は平面でその上に半円が載る。（調査日：2025年8月29日）



## 168 忠魂護邦家

▲ その他

所在地：安城市今本町（安城市）

東栄今本町内公民館駐車場奥に設置されている。大正9年（1920）4月、戦没者の英霊を顕彰するため建立された。築山の基壇に載り、方角柱の石碑の上部には、青銅製の地球と鷲が据えられている。周りには玉垣が巡らされている。「忠魂護邦家」の揮毫は「陸軍大将男爵土屋光春謹書」とある。「明治三十七八年戦役」（日露戦争）と「大東亜戦役」（日中戦争・太平洋戦争）の戦没者氏名が背面と両側面に刻まれている。（調査日：2025年8月29日）



## 171 楓(皇紀二千六百年植樹)および石碑

▲ その他

所在地：安城市桜町（安城市）

安城公園動物舎の東側に所在。昭和15年（1940）の皇紀2600年の記念として、安城市では安城公園運動場（陸上競技場）を造り、二千六百年奉祝安城町体育大会・武道大会が実施された。この時、皇紀二千六百年祭を祝して楓26本が植樹され石碑が建てられた。碑の正面に「祝紀元二千六百年 二十六本 記念にうゝる 楓かな 秋香」、背面に「昭和十五年十一月十日 大見菊三郎」と刻まれる。（調査日：2025年8月27日）



## 173 「天壤無窮」銘石造物

▲ その他

所在地：安城市安城町宮地

若一王子社の東側、「忠魂碑」が置かれた築山の前にある。「八紘一宇」と刻まれた石灯籠に囲まれている。昭和15年（1940）12月に建立。正面に「天壤無窮」、左側面に「國體明徴」、背面に「昭和十五年十二月」等、右側面に「臣道實踐」と刻まれる。台座の正面に神紋が施されているが擦れていて詳細不明。（調査日：2025年8月27日）



174

## 「八紘一字」銘石造物



その他

所在地：安城市安城町宮地

若一王子社の東側、「忠魂碑」が置かれた築山の前にある石灯籠。石灯籠は8基とも現存し、同一の形状をして忠魂碑をコの字形に囲んでいる。竿の正面に「八紘一字」と刻まれているが、セメントのようなもので埋められている。また側面に「皇紀二千六百年」（昭和15年（1940））等とある。目立った傷などはない。（調査日：2025年8月27日）



175

## 旧宝泉院の梵鐘代替品



その他

所在地：安城市安城町城堀（安城市）

コンクリート製の梵鐘代替品で、高さ108cm、直径80cmある。現状では上部にひびが入り、表面の突起も破損しており、銘文は摩耗により判読できない。現在は安城市埋蔵文化財センターに置かれている。（調査日：2024年10月15日）



176

## 和泉の乃木希典像



その他

所在地：安城市安城町城堀（安城市）

令和2年（2020）1月、和泉保育園建設中に地中に埋められていた乃木希典像が発見された。頭部、右足膝より下、左足首を欠損。それ以外にも欠損や傷が多い。軍刀を両手で持っている状態。土中にあったせいか、全体に黄土色をしている。元は明治第一尋常小学校（旧安城市立泉小学校）に建立されていた。現在は安城市埋蔵文化財センターで保管されている。（調査日：2025年8月27日）



178

## 軍馬霊



その他

所在地：安城市安城町荒下

日露戦争で戦病死した軍馬の霊を顕彰する慰霊碑が、安祥寺に隣接する向野墓地の北端に置かれている。コンクリートを円形に固めた基壇の上に自然石の台座を置き、その上に碑を安置。石碑は薄い変形菱形で正面に「卅七八季戦役斃死軍馬霊」、背面には「明治参拾九年四月廿一日 馬方發起 寄附人」と刻まれる。（調査日：2025年8月27日）



## 179 福釜の乃木希典像

▲ その他

所在地：安城市福釜町宮添

砂岩製で高さ159cmある。台座には前面に「至誠」、背面に「昭和十一年三月十日建之 神谷高治」と刻まれている。現在は福釜神明神社南の忠魂場に鉄枠で支えられて置かれている。昔は小学校にあり、終戦後埋められたが、掘り出されて現在に至る。(調査日：2025年1月29日)



## 180 表忠碑(福釜神明神社)

▲ その他

所在地：安城市福釜町宮添

福釜神明神社の道を挟んだ向かい側に設置されている。大正9年(1920)3月、戦没者の英霊を顕彰するため建立された。石垣の基壇に載り、方角柱の石碑の上部には青銅製の地球と鷲が据えられている。周りには玉垣が巡らされている。「表忠碑」の揮毫は「陸軍大将男爵土屋光春書」とある。背面に「大正九年三月建之」と刻まれる。玉垣が巡らされ、立ち入れないようになっている中には「戦役従軍士」「殉國之勇士」の碑が建てられている。同じ敷地内には乃木希典像もある。(調査日：2025年8月22日)



## 181 奉安殿跡

▲ その他

所在地：安城市福釜町猿渡(安城市)

安城市立安城西部小学校の運動場南の樹木園に奉安殿跡がある。昭和15年(1940)12月17日に竣工式が行われた。そこに建つ石碑の表面に「奉安殿」とあるが、「殿」の下から完全に割れた跡が残る。石碑表面には「奉安殿 寄附 大阪府 大津町 岩月重次郎」、裏面は「皇紀二千六百年昭和十五年十一月」と刻まれている。この奉安殿の碑を取り囲むように7本の石柱が建てられており、その内の2本に「御大典記念 大正四年十一月」「昭和十一年三月卒業生」といった文字が確認できた。石柱には貫通する穴が側面にあけられている。(調査日：2025年8月29日)



## 182 高棚神明神社の乃木希典像

▲ その他

所在地：安城市高棚町中敷

神明神社の鳥居をくぐった左手に乃木希典像と東郷平八郎像が並んで建っている。向かって右側が乃木像。花崗岩製で高さ180cm、昭和19年(1944)2月11日建立。切り石を組んだ石垣の上に台座を載せ、右手に望遠鏡、左手に軍刀を持つ。切り石には荒木貞夫大将による「至誠有終」の文字、台座には乃木自作の漢詩「爾靈山」が刻まれている。この像は元は依佐美第二尋常小学校(現安城市立高棚小学校)に建立されていた。計測値は2023年度基礎調査による。(調査日：2025年8月22日)



183

## 高棚神明神社の東郷平八郎像



その他

所在地：安城市高棚町中敷

神明神社の鳥居をくぐった左手に乃木希典像と東郷平八郎像が並んで建っている。向かって左側が東郷像。花崗岩製で高さ170cm、昭和19年(1944)2月11日建立。切り石を組んだ石垣の上に台座を載せ、右手に双眼鏡、左手に軍刀を持つ。軍帽には海軍の紋章らしきものが確認できる。切り石には荒木貞夫大将による「宏勳無疆」の文字、台座には日露戦争の日本海海戦で東郷が述べた言葉、「皇国の興廃此一戦に在り各員一層奮励努力せよ 元帥伯爵東郷平八郎」が刻まれている。この像は元は依佐美第二尋常小学校(現安城市立高棚小学校)に建立されていた。計測値は2023年度基礎調査による。(調査日:2025年8月22日)



184

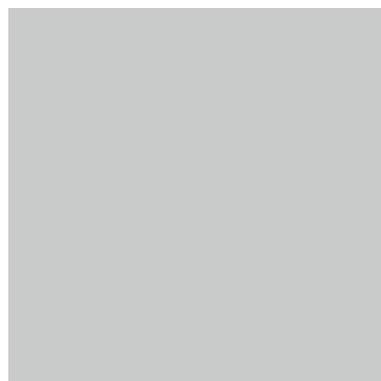
## 本楽寺の梵鐘代替品



その他

所在地：安城市赤松町新屋敷

コンクリート製の梵鐘代替品で、高さ100cm、直径70cmある。製作時に砂利を多く使ったためか、上部に砂利が露出している。表面の剥離や縁の欠損などがみられる。現在は鐘楼の前に置かれている。(調査日:2024年12月8日)



185

## 古井記念碑場の乃木希典像



その他

所在地：安城市古井町豊日

花崗岩製で高さ146cmある。台座の上で軍刀に両手を添えて立つ。台座の背面に寄進者名が刻まれているが摩耗し判読できない。戦後に現在の古井神社の境内に移設された。(調査日:2024年11月24日)



186

## 表忠碑(八劔神社)



その他

所在地：安城市榎前町北榎

榎前八劔神社奥の榎前農村公園内に設置されている。昭和2年(1927)10月、戦没者の英霊を顕彰するため建立された。丸石を用いた石垣の上に碑が建つ。周りには玉垣が巡らされている。石碑正面の「表忠碑」の揮毫は陸軍大将従三位勲一等功二級鈴木莊六書とある。背面には「昭和二年十月建之」と刻まれている。(調査日:2025年8月22日)



## 187 和泉大地蔵尊

▲ その他

所在地：安城市和泉町上之切

人間の大きさ程の石製の大地蔵尊。石の台座の上に蓮華の座を置き、その上に安置。首に大きな数珠をかける。台座前面には「右をかざき道」「左あんじやうテシャバ道」と道標が刻まれている。日清・日露戦争の英霊を顕彰し、供養と恒久平和を願って明治40年（1907）正月に建立されたという。（調査日：2025年8月22日）



## 188 本龍寺の梵鐘代替品

▲ その他

所在地：安城市和泉町中本郷

コンクリート製の梵鐘代替品で、高さ84cm、直径74cmある。表面は摩耗し、ひびが入っている。また、乳（梵鐘の表面上部に並ぶ小突起）は全て剥落している。現在は鐘楼の前に置かれている。（調査日：2024年12月8日）



## 189 桜井靖霊神社の乃木希典像

▲ その他

所在地：安城市桜井町城阿原

桜井靖霊神社の拝殿裏に、自然石の台座の上に両手を軍刀に添えて立っている。花崗岩製で高さ123cm、昭和11年（1936）度に建立。石の正面には「盡忠報國」、裏には「第二回卒業記念 昭和拾壹年度 青年学校卒業生」とあり、卒業生30名の氏名が刻まれている。石像はこの卒業生たちが、桜井第二尋常小学校（旧安城市立桜井中部小学校、現在の安城市立桜井小学校）に寄付したものだ。計測値は2023年度基礎調査による。（調査日：2025年9月12日）



## 190 蓮泉寺の梵鐘代替品

▲ その他

所在地：安城市小川町志茂

花崗岩製の梵鐘代替品で、高さ85cm、直径76cmある。「昭和十八年四月」の銘文がある。上部の吊り手は欠損している。鐘楼近くに置かれている。（調査日：2024年12月8日）



191

## 明治第五国民学校の乃木希典像



その他

所在地：安城市城ヶ入町雨池

花崗岩製で高さ165cmある。台座の上で軍刀に両手を添えて立つ。この台座は新しく用意されたもので、旧台座は城ヶ入町公民館の北側に残る。終戦まで明治第五国民学校（戦後、安城市立城ヶ入小学校）に置かれていたが、白山社境内に移設された。城ヶ入小学校は昭和46年（1971）に閉校となり、跡地は城ヶ入町公民館と城ヶ入こども園になって現在に至る。（調査日：2024年11月24日）



193

## 長因寺の偽装跡



その他

所在地：安城市木戸町南屋敷

空襲の標的にならないよう、本堂を新築した際コールターールで屋根を黒く塗ったとされている。一部の軒平瓦にその痕跡が残っている。（調査日：2024年12月8日）



194

## 岡崎海軍航空隊基地の防空監視塔



軍事施設

所在地：安城市橋目町（安城市）

昭和19年（1944）、第一～第三岡崎海軍航空隊が、豊田・岡崎・安城にまたがる地域に設立された。第一航空隊の防空監視塔は、昭和30年（1955）に開拓記念碑に転用され、現在の市営墓地内に建てられた。コンクリート造で、上部に4箇所の監視口があいている。台座に「記念碑由来」がはめこまれている。（調査日：2024年11月24日）



196

## 正念寺の梵鐘代替品



その他

所在地：岡崎市中町野添

陶製の梵鐘代替品で、高さ92cm、直径68cmある。表面の乳（梵鐘の表面上部に並ぶ小突起）は全て剥落している。銘文の一部に「享保十二年龍集丁未」とある。土管製造業の吉田土管で制作されたもので、暗褐色をしている。西尾市上町字下屋敷の正念寺にあったが廃寺となり、現在は岡崎市の東本願寺三河別院で保管されている。（調査日：2024年10月16日）



200

## 両町の被災常夜灯

◆ 空襲・戦災

所在地：岡崎市両町

昭和20年(1945)7月20日に岡崎空襲で被災した常夜灯。寛政2年(1790)に建てられたもの。部分的に破損したが、昭和47年(1972)までその原形をとどめていた。しかし、傷みがひどく危険なため、同年10月に解体して、宝珠と台石の一部を両町公民館入口脇にあるお堂状の小屋の中で保管することとなった。小屋には「常夜灯の由緒(昭和47年10月)」が掲げられる。(調査日:2024年10月16日)



202

## 追進農場の御真影奉掲所

▲ その他

所在地：岡崎市美合町(愛知県)

愛知県追進農場(現愛知県立農業大学校)の大講堂(追進館)に設けられた御真影奉掲所である。大講堂は、昭和10年(1935)10月27日に落成した。現在は老朽化のため立入禁止となっている。(調査日:2024年10月22日)



204

## 鉢地坂隧道

● 軍事施設

所在地：岡崎市・蒲郡市境(岡崎市・蒲郡市)

昭和8年(1933)に竣工した、全長468m、幅員5mの隧道。内部は、鉄筋を用いたコンクリート巻立てや、素掘りにモルタルを吹き付けるなどの工法を組み合わせ、強度と経済性を両立させている。また、両入口には切石のアーチ環が施されている。交通を遮断し軍の弾薬置場に使用されていたが、現在ではそのような痕跡は見られない。計測値は「トンネル年次計画(R7.4.1時点)」による。(調査日:2024年11月10日)



205

## 歩兵第六連隊の被服庫

● 軍事施設

所在地：高浜市新田町

木造寄棟造瓦葺2階建の建物である。名古屋城二の丸にあった歩兵第六連隊の第一被服庫または第二被服庫のどちらかと推定される。終戦後、第六連隊の跡地は名古屋大学として使用されていたが、大学移転後に連隊本部舎と被服庫は、橋本電機工業(株)に払い下げられ、昭和40年(1965)に移築された。連隊本部舎は平成元年(1989)に解体され、被服庫が残る。屋根の鬼瓦に「學」字瓦があるのは、名古屋大学が瓦を葺き替えた際に入れたものと推測され、戦後に改築されていることが分かる。(調査日:2025年1月29日)



206

## 明治第二国民学校の乃木希典像



その他

所在地：碧南市半崎町

八劔神社の鳥居をくぐって右手奥、築山の忠魂場に日清・日露戦争従軍者碑とともに設置。乃木像はコンクリート製で、自然石の台座の上に置かれ、軍刀に両手を載せて立っている。かつて油湊町の応仁寺内に明治第二国民学校（現碧南市立西端小学校、後に現在地に移設）があった。その一角に数基の石碑と乃木像が置かれていたが、終戦後、戦争関係の石碑の存在を隠し、数年後に八劔神社に移設したと伝わる。（調査日：2025年8月29日）



207

## 旭村日進国民学校の奉安殿



その他

所在地：碧南市平七町

コンクリート造入母屋造銅板葺の奉安殿である。旭村日進国民学校（現碧南市立日進小学校）に設置されていた。石製基壇の上に置かれ、扉は鉄扉で、壁面は校倉造風で正面入り口上には「五瓜に桜」の紋章が配されている。現在は霞浦神社境内にある。右側に「旭奉公神社」と刻まれた標柱がある。（調査日：2024年11月17日）



208

## 米津神社の山本五十六像



その他

所在地：西尾市米津町宮浦

米津神社内、戦捷記念碑の建てられた築山の麓に海軍の山本五十六像、陸軍の乃木希典像の二つの石像が立っている。山本像は乃木像よりも一段高い石製台座の上に立ち、左手で軍刀を持っている。左手の人差し指と中指は先端が欠損しており、敵の砲弾の爆発により両指を負傷したという姿を正確に表している。昭和19年（1944）3月に建てられ、寄附者21名の氏名が刻まれており、また、側面には「岡崎市中町 田中保正刻」と刻まれていたという。（調査日：2025年8月29日）



209

## 米津神社の乃木希典像



その他

所在地：西尾市米津町宮浦

米津神社内、戦捷記念碑の建てられた築山の麓に海軍の山本五十六像、陸軍の乃木希典像の二つの石像が立っている。乃木像は軍刀の柄尻の上に両手を添えて、左足をやや前に出している立像として表されている。台座の背面に銘文が刻まれているが、現在は半分土に埋もれているため読むことはできない。昭和15年（1940）1月に石川兼吉ほか16名が建設したと刻まれていたという。（調査日：2025年8月29日）



## 210 熊野神社の乃木希典像

▲ その他

所在地：西尾市上町浜屋敷

当初は民家に建立されていたが、現在は熊野神社境内にある。コンクリート製で高さ178cmある。自然石を並べた上に石製の台座を載せ、軍刀に両手を添えて立つ。(調査日：2024年10月20日)



## 212 平坂第一国民学校の奉安殿

▲ その他

所在地：西尾市中畑町宮前

コンクリート造銅板葺の奉安殿である。基壇上に置かれ、扉は鉄扉で金具による装飾が四隅と中央に施されているが、1箇所欠けている。平坂第一国民学校(現西尾市立中畑小学校)にあったが、戦後、中畑町の八幡社境内に移築された。(調査日：2024年10月20日)

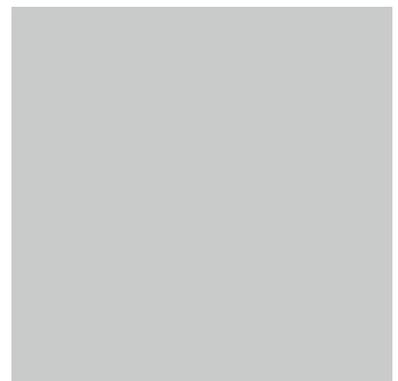


## 213 平坂第一国民学校の楠公父子像

▲ その他

所在地：西尾市中畑町宮前

花崗岩製で、正成像の高さは100cm、正行像はその半分ほどである。周りに石を配した円形のコンクリート製の台座の上に、対面している父子が座っている。昭和15年(1940)に平坂第一国民学校(現西尾市立中畑小学校)に建立された。現在、中畑公民館脇に移設されている。傍らの石柱には正面に「七生報君」、右側面に「紀元二千六百年記念」と刻まれている。(調査日：2024年10月20日)



## 216 養寿寺の梵鐘代替品

▲ その他

所在地：西尾市下矢田町郷

コンクリート製の梵鐘代替品で、高さ107cm、直径70cm、厚さ10cmある。中は空洞になっている。風化しひび割れが確認できる。銘文は摩耗のため確認できなかった。本堂に向かって右側に置かれている。(調査日：2024年10月16日)



217

## 鎧の壕

● 軍事施設

所在地：西尾市吉良町岡山字鎧

山麓に構築された坑道式掩蔽部である。幅 2m、高さ 2m、長さ 22.6m を測る。開口部はアーチ状である。太平洋戦争末期、本土決戦準備のため構築された銃砲台である。(調査日：2024 年 11 月 23 日)



219

## 山王山の壕

● 軍事施設

所在地：西尾市吉良町岡山山王山

善光寺沢南古墳の墳丘北側に入口を構える坑道式掩蔽部である。善光寺沢南古墳は 4 世紀中葉に築造された方墳であるが、古墳の墳丘を削り、露呈した石室を破壊して壕を掘ったように思われる。入口の手前には柵があり立入禁止となっている。外側から内部を観察するが、壕の入口から数 m で板でふさがれており内部の様子は不明。(調査日：2024 年 11 月 23 日)



220

## 大通院の機銃弾跡

◆ 空襲・戦災

所在地：西尾市吉良町寺嶋字手洗

昭和 20 年（1945）7 月に吉良町が空襲された際、戦闘機による機銃掃射の銃弾により本堂の縁板にできた 20cm の穴。「昭和二十年七月 米国グラマン戦闘機による銃弾跡」と貼紙がある。(調査日：2024 年 10 月 20 日)



222

## 饗庭の壕

● 軍事施設

所在地：西尾市吉良町饗庭

丘の上と山腹にそれぞれ構築された坑道式掩蔽部である。丘の上の壕は銃砲台、山腹の壕は棲息用である。坑道は落盤により確認できず、窪地や切通しのような箇所が残る。「陣地壕跡」の説明板が立てられている。(調査日：2024 年 11 月 23 日)



## 223 願成寺の梵鐘代替品

▲ その他

所在地：西尾市吉良町白浜新田（西尾市）

コンクリート製の梵鐘代替品で、高さ136cm、直径84cmある。表面の乳はほとんど脱落し、破損やひびが生じている。陰刻された文字は判読困難である。吉良町中野の願成寺の鐘楼に吊り下げられていた。昭和23年（1948）に新しい梵鐘が鑄造されたため、取り外されて鐘楼近くに置かれていたが、平成3年（1991）に現在の西尾市塩田体験館敷地内に移設された。（調査日：2024年10月20日）



## 224 海洋道場の建物

● 軍事施設

所在地：西尾市東幡豆町小見行田

太平洋戦争中に海軍軍人らが青少年に海洋訓練を行った施設。元は昭和8年（1933）に個人の別荘として建てられたものを転用した。現在は旅館（鈴喜館）として使用されている。戦時下に各地に配された海洋訓練機関である海洋道場の一つとして、青年男子の鍛錬場となった。終戦後は収容人数の大きさから団体客や大学の実習時の定宿として利用されるなど、現在に至るまで民宿として活用されている。海洋道場であった建物の裏には防空壕があったという。（調査日：2025年2月12日）



## 225 寺部射場の境界柱

■ 軍需工場

所在地：西尾市幡豆町寺部字下宇頭

「陸軍」銘の石製境界柱で、寺部射場から地蔵堂の境内に移設したものである。寺部射場は名古屋陸軍造兵廠で製造された山砲の射撃試験場として昭和17年（1942）に完成。（調査日：2024年10月20日）



## 226 茶臼山の壕

● 軍事施設

所在地：幸田町須美

茶臼山に構築された坑道式掩蔽部で、銃砲台である。1基は入口がスロープ状になっており、幅2m、高さ2m、長さ12mある。平原の滝から山頂へ向かう途中の開けた場所から山道を進んだ所に位置し、北東へ10m先に2基目がある。2基とも貫通していないことから未完成である。壕の計測値は『愛知県史』による。（調査日：2024年11月13日）



233

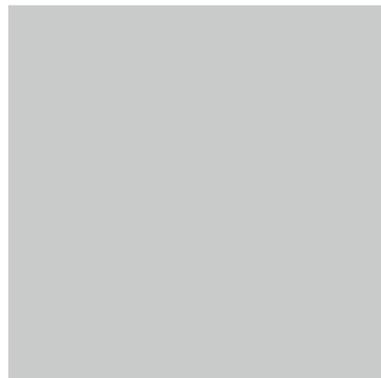
## 中設楽国民学校の乃木希典像



その他

所在地：東栄町中設楽（東栄町）

花崗岩製で高さ135cmある。石積みの上に台座に載せられて軍刀に両手を添えて立つ。台座正面には「至誠」、裏には「紀元二千六百年記念 昭和十五年三月十日 寄附者 尾林五三郎建之 豊橋市湊町 石工高橋」とある。昭和15年（1940）に建立され、中設楽小学校内に置かれていた。現在も廃校となった中設楽小学校跡地にある。（調査日：2024年12月27日）



235

## 海老防空監視哨



その他

所在地：新城市海老

平間山の山頂に設置されていた防空監視哨。

現在は、哨舎の土台と思われる、一辺4.5mの石積みの土台の石垣が残存している。（調査日：2025年1月8日）



237

## 鳳来寺大仏(薬師如来)の台座



その他

所在地：新城市門谷字鳳来寺

山門から続く石段の途中、本堂に近い位置にある。破損した台座のみが、切り石積みの石垣の上に残存している。本尊は戦時中の金属類回収で供出されたとされる。石垣の両脇に一对の灯籠が置かれ、「峯薬師如来」「文久二戌年五月吉日」と刻まれている。（調査日：2024年12月16日）



238

## 鳳来山東照宮の三代狛犬



その他

所在地：新城市門谷字鳳来寺

鳳来山東照宮拝殿の階段両脇、現在置かれている3代目の狛犬一对の裏に安置。2代目は丸くなって原型をとどめていないが台座に載り、辛うじて尾や腰のあたりの輪郭に狛犬らしさが残っている。しかし初代は完全に丸石と化している。これは日清・日露・太平洋戦争に出征する人々が狛犬を削り、その欠片を武運長久祈願のお守りとして持って行ったためという。（調査日：2025年9月8日）



## 239 門谷国民学校の奉安庫

▲ その他

所在地：新城市門谷

旧門谷国民学校校舎の東端にある。校舎の外観からの観察のため、奉安庫の張り出しは確認できたが、奉安庫内部の現状は不明。門谷国民学校の校舎は大正時代に建てられた建築だが、昭和45年（1970）に閉校となり、現在はイベントなどの際に利用されている。（調査日：2024年12月5日）



## 242 臼子の防空壕群

▲ その他

所在地：新城市豊栄

山の斜面に3基の防空壕がある。いずれも入口がコンクリートブロックで封鎖されている。また、民家の敷地に2基の防空壕が並び、石垣で入口が組まれ、うち1基は柵により封鎖されている。防空壕と伝えられているが、実際に利用されたかは不明である。（調査日：2025年1月8日）



## 250 桜淵の奉安殿

▲ その他

所在地：新城市桜淵（新城市）

桜淵公園内に2基の奉安殿が現存する。公園の南端の築山に建てられた忠魂碑の脇に1基設置されており、切妻屋根の前面が長い流造りでコンクリート造の奉安殿がコンクリートの基壇に載せられている。両開きの鉄扉で、向かって右側の扉にダイヤル錠がつけられ、壁にはひびが走っている。

そこから150mほど北東にある忠魂碑の後方にもう1基の奉安殿が設置されている。こちらは自然石に載せられた小型の切妻屋根のコンクリート造で、両開きの鉄扉である。（調査日：2025年9月10日）



## 251 八幡神社の防空壕

▲ その他

所在地：新城市中宇利字坂

幅約1m、高さ約1.5m、奥行き約5mの防空壕。大人が身をかかめて入れる程度で、幅もかなり狭い。奥で多少左に曲がっている。山の斜面に縦長の楕円形の開口部が確認できる。大きめの礫が落ちているのが目立つ。計測値は2023年度基礎調査による。（調査日：2024年11月19日）



252

## 慈廣寺の壕

● 軍事施設

所在地：新城市中宇利字大幡

慈廣寺庭園内に幅2.5～3m、長さ4～6mの方形の壕が2基あり、1基は埋まっている。このほか、付近には壕が1基、坑道式壕1基があった。(調査日：2024年11月18日)



253

## 洞雲寺の壕

● 軍事施設

所在地：新城市富岡字半原田

洞雲寺周辺に幅2.5m、長さ6～9mの方形の壕が7つあったとされる。調査では壕跡らしき落ち込みを洞雲寺境内北西部の山林の中で確認した。ほぼ土砂や草木に埋もれていて形状などの詳細は分からなかった。(調査日：2024年11月19日)



254

## 車神社の壕

● 軍事施設

所在地：新城市富岡字林添

車神社奥の院のある山林の北側と南側裾部に2基の壕がある。草木や堆積土砂で確認しづらいが、1基は幅2.5m・長さ6m、もう1基は幅0.9m・長さ4mの方形の壕である。奥の院のさらに奥の森林の中には、2基の方形の壕がある。現状は壕の周りに土を盛り、土塁状の高まりとなっている。範囲が不明確なため規模は確認できない。(調査日：2024年11月19日、20日)



255

## 八名の奉安殿

▲ その他

所在地：新城市富岡字大廻（新城市等）

奉安殿の標柱と石階段のみ残存する。

標柱は富岡尋常高等小学校の跡地（現富岡ふるさと会館広場）に倒れた状態で置かれており、「昭和五年十月三十日 寄附者 本校出身 京都市 中村傳」、「勅語渙發四十周年記念」という銘が確認できる。

石階段は富岡神社の正面に残っている。中村傳氏は同校の卒業生で京都の開業医。奉安殿建設のために1,200円寄付したと説明板に記されている。(調査日：2025年9月10日)



## 256 平尾山防空監視哨

▲ その他

所在地：新城市富岡字南川

愛知県新城市と静岡県浜松市の県境に位置する平尾山（標高 464m）の山中、山の斜面に整然と自然石が積まれた石垣が残存している。ところどころに加工された石も確認できる。（調査日：2024年12月22日）



## 257 日露戦役 of 凱旋門

▲ その他

所在地：豊川市萩町塩ノ田

豊川市立萩小学校から北西の、小高い丘にある忠魂碑の前方に、一对の石標柱が建っている。明治39年（1906）1月の建立。

日露戦争の凱旋を祝して建てられた門だが表側の文字はセメントのようなもので埋められ、辛うじて向かって右側に「祝凱旋」と刻まれていたことがわかる。

背面は劣化が進み読み取れないが、向かって左側の背面には人名が、右側の背面には「萩村」と刻まれていることが確認出来る。「明治三十九年第一月 萩村 岡崎裏町石工 杉浦正一郎」と刻まれていたという。（調査日：2025年8月8日）



## 258 千両配水場の配水池

■ 軍需工場

所在地：豊川市千両町下当（豊川市）

標高 60m ほどの高台にあり、一宮の大和 вод源地から豊川の水を取得し、一宮浄水場と千両配水場を経て、自然流下で工廠に供給していた。これらの水道設備は、昭和14年（1939）の豊川海軍工廠建設・操業に先立ち、軍関係施設へ給水するために建設された。配水池の上部は土砂が被されている。弁ハンドルが2箇所現存している。1箇所はハンドル破損。（調査日：2025年2月4日）



## 259 豊川海軍工廠の試射場

■ 軍需工場

所在地：豊川市千両字滝ノ入（国）

現陸上自衛隊千両演習場にある。豊川海軍工廠の試射場は、昭和14年（1939）に完成。7.7mm 及び 13mm 機銃の発射試験をしていた。当時の建物のうち、コンクリート造の建物1棟を確認。苔生し、ツタ類が広がり、ひびも散見される。（調査日：2024年11月27日）



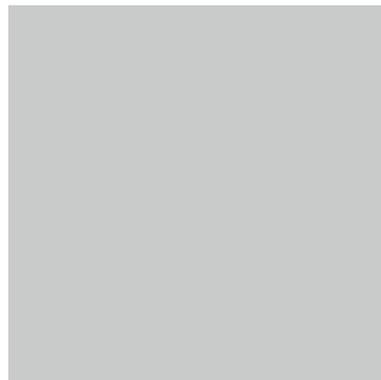
261

## 宮田の壕

■ 軍需工場

所在地：豊川市市田町宮田

宮池西の山麓にある長さ22mの素掘り防空壕である。道路縁から5mほど離れた位置に開口部がある。入口は土砂が堆積し、内部の様子は不明である。豊川海軍工廠の防空壕として、直線距離で北西方向に約1.5kmの位置に構築された。防空壕の計測値は『愛知県史』による。(調査日：2024年12月16日)



263

## 大和水源地

■ 軍需工場

所在地：豊川市豊津町上川原

大和水源地は、豊川海軍工廠へ水を供給する目的で豊川右岸に設置された取水口である。施設の周辺に6基の境界柱が残る。「海軍用地」と刻まれているのが確認できるのは1基のみで、他は埋没している。(調査日：2025年2月4日)



265

## 豊川海軍工廠の被災建物・爆弾穴

◆ 空襲・戦災

所在地：豊川市穂ノ原

豊川海軍工廠の火工部は、敷地の北半と中央部分を占めていた。火工部の一部は現在、名古屋大学宇宙地球環境研究所敷地内となっている。モルタル煉瓦造建物（原料置場）2棟、便所、第二火薬庫、第三火薬庫のほか爆弾穴が2箇所ある。煉瓦造建物には被災跡が残る。爆弾穴はともに直径約8mである。(調査日：2024年12月16日)



267

## 豊川海軍工廠の会計部衛生班詰所の基礎

■ 軍需工場

所在地：豊川市穂ノ原(国)

会計部衛生班詰所のコンクリート基礎と水槽のような構造物が残る。現在は、陸上自衛隊豊川駐屯地内にある。(調査日：2024年11月27日)



## 268 豊川海軍工廠の光学部研磨工場

■ 軍需工場

所在地：豊川市穂ノ原（国）

コンクリート造2階建て、平屋根の建物である。現在は、陸上自衛隊豊川駐屯地内にあり、第一三〇地区警務隊豊川派遣隊、第十師団豊川自動車教習所などに使用されている。（調査日：2024年11月27日）



## 269 豊川海軍工廠の水路と土塁(拡張前)

■ 軍需工場

所在地：豊川市穂ノ原（国）

陸上自衛隊豊川駐屯地内にある土塁と水路は豊川海軍工廠時代のもので、水路は石垣やコンクリートで護岸され、海軍工廠当時の排水口も数箇所を確認できる。排水管は分厚いコンクリートが覆う堅牢な造りである。土塁は水路を囲むように築かれている。（調査日：2024年11月27日）



## 270 豊川海軍工廠の水路と土塁(拡張後)

■ 軍需工場

所在地：豊川市穂ノ原（国、豊川市）

豊川海軍工廠平和公園の敷地北側に土塁の一部が残っており、土塁の外側には排水路が設けられている。海軍工廠は、土塁と排水路により周囲から画されていた。排水路は土塁と並行して流れており、整備されて現在も利用されている。コンクリートで護岸され、水量も豊富である。（調査日：2024年9月25日、10月14日）



## 271 豊川海軍工廠の街路灯

■ 軍需工場

所在地：豊川市穂ノ原（国、豊川市）

豊川海軍工廠平和公園内に8本、陸上自衛隊豊川駐屯地内に3本の街路灯が残る。平和公園のものは高さ4.45mの細長い円筒形で鉄筋コンクリート製。かつては上部に鉄製の傘が乗り、電球のソケットが傘の中に埋め込まれていた。傘はないが割れた電球の付いたままソケットが残っているものがある。コンクリート製の柱は劣化して中の電線が数箇所見えている。計測値は「豊川市公式ホームページ」による。（調査日：2024年11月27日）



272

## 豊川海軍工廠の機銃部図庫

■ 軍需工場

所在地：豊川市穂ノ原

鉄筋コンクリート・ラーメン構造 2 階建てで平屋根の建物である。建物東側の壁面の一部は、コンクリートが剥がれ、中の煉瓦が露出している。この建物は、豊川海軍工廠機銃部で使用した重要な図面等を保管した。現在は、旭メタルズ（株）敷地内に所在し、厚生会館（書庫）として使用されている。（調査日：2025 年 2 月 4 日）



273

## 豊川海軍工廠の正門

■ 軍需工場

所在地：豊川市穂ノ原

豊川海軍工廠の正門は、現在は日本車輛製造（株）豊川製作所の正門として使用されている。昭和 20 年（1945）8 月 7 日の空襲で相当の被災があったと思われるが、現在は表面をコンクリートで補修されている。（調査日：2024 年 10 月 14 日）



274

## 豊川海軍工廠の火工部雷管試験場

■ 軍需工場

所在地：豊川市穂ノ原

コンクリート造平屋建て、平屋根の建物である。内部の廊下は天井が高い。頑丈にできており、改修なども必要最小限にとどまっている。ここでは、雷管がどのくらいの衝撃で起爆するかを試していた。現在は、トピー工業（株）敷地内にあり、社員の詰所として使用されている。（調査日：2025 年 2 月 13 日）



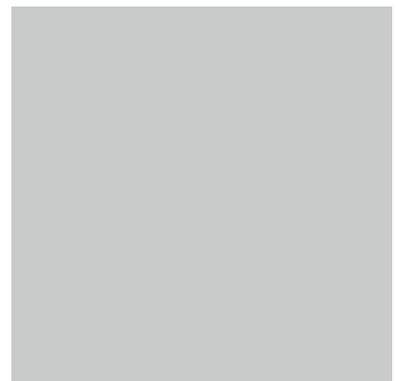
275

## 豊川海軍工廠の引込み線

■ 軍需工場

所在地：豊川市桜木通

豊川海軍工廠へ工員や物資を運び込むため、昭和 16 年（1941）に建設された。現在も日本車輛製造（株）の引込み線として利用されている。愛知県史では、佐奈川に架かる橋梁は昭和 16 年製造当時のままとされるが、現在は新しく橋桁が塗装されており、「塗装年月 2013 年 2 月」と表記されたプレートが確認できる。（調査日：2024 年 11 月 27 日）



## 276 西豊川駅跡

■ 軍需工場

所在地：豊川市桜木通

豊川駅と豊川海軍工廠を結んだ西豊川駅の跡。飯田線豊川駅から延びる西豊川支線の終着駅で昭和17年(1942)開業、昭和31年(1956)廃止。ここから豊川海軍工廠へ工員や物資を運ぶ引込み線が敷設されていたが、現在では日本車輛製造(株)の専用線となっている。旧駅舎は線路と現在の桜木公園の間に存在したようだが、駅舎の痕跡をうかがわせるものはない。(調査日：2024年12月16日)



## 277 諏訪神社の狛犬

◆ 空襲・戦災

所在地：豊川市諏訪西町

昭和20年(1945)8月7日の豊川海軍工廠空襲により被災した神社で焼け残った、狛犬阿吽の両像。阿形像の口元あたりや吽形像の尾のあたりと前脚部の損傷が激しい。平成14年(2002)、諏訪神社境内の一画にこの2体を配し、非戦の誓いととともに戦禍で亡くなられた方々の霊に捧げられた。(調査日：2024年10月14日)



## 278 長栄寺の西国三十三観音

◆ 空襲・戦災

所在地：豊川市諏訪西町

昭和20年(1945)8月7日の豊川海軍工廠空襲により被災した石仏。かつては長栄寺参道入口横の堂内に西国三十三観音像と自然石に彫られた観音像3体が祀られていた。現在は長栄寺境内西の堀沿いに、破損した地蔵尊像を挟んで、割れたり欠損したりした観音像が左右に全19体並ぶ。(調査日：2024年10月14日)



## 279 豊川海軍工廠の海軍境界柱(ひまわり農協本店北西側交差点)

■ 軍需工場

所在地：豊川市諏訪

海軍用地であったことを示す境界柱。歩道脇の電柱の傍らで確認。すり減ってはいるが海軍のマーク(二重波線)と「海軍用」までは確認できる。上部は砂利が露呈している。豊川海軍工廠の敷地の南の際に位置している。(調査日：2024年10月14日)



280

## 豊川海軍工廠のケヤキ並木

◆ 空襲・戦災

所在地：豊川市諏訪（愛知県）

海軍工廠時代に正門前の道路に植えられたケヤキ並木。空襲で大きな被害を受けたが、現在も日本車輛製造（株）豊川製作所の正門前から南に延びる道路の両側に残存している。南に行くにつれて本数は減っていく。（調査日：2024年10月14日）



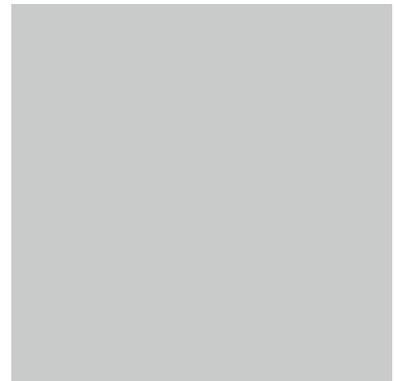
281

## 諏訪墓地

▲ その他

所在地：豊川市新道町（豊川市）

昭和20年（1945）8月7日の豊川空襲で犠牲となった方々を供養した墓地。空襲後に集められた多数の遺体は第二工員養成所の庭に並べられたが、人数があまりにも多く、また火葬施設が不足し、しかも夏場で遺体の腐敗の進行が速いため、豊川市内千両町と市田町諏訪林の国有地に急造された墓地に2,385柱が仮埋葬された。その後、管理者もおらず遺体は仮埋葬されたまま6年間放置されていた。その後、昭和26年（1951）になり、横須賀・呉両復員局らにより遺骨の発掘がされ、茶毘に付されて遺族に引き渡された。現在は海軍工廠の各部署、学徒動員を行った学校、個人など、約30基の墓石や慰霊碑などが並んでいる。（調査日：2025年8月8日）



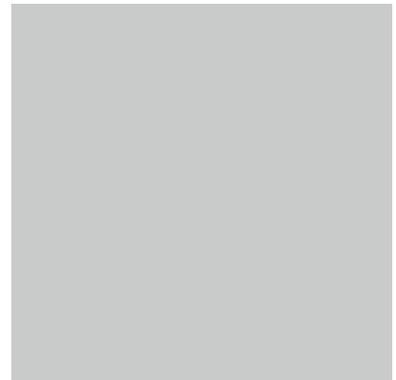
282

## 豊川海軍工廠の海軍境界柱(中央通り5丁目交差点付近)

■ 軍需工場

所在地：豊川市中央通

海軍用地であったことを示す境界柱。中日新聞社豊川通信局前と歩道の境で確認。海軍のマーク（二重波線）と「海軍」まで判読できる。文字の残りはかなりよく、「海軍」と刻まれた面が歩道側に向いている。豊川海軍工廠の敷地の南の側に位置している。（調査日：2024年10月14日）



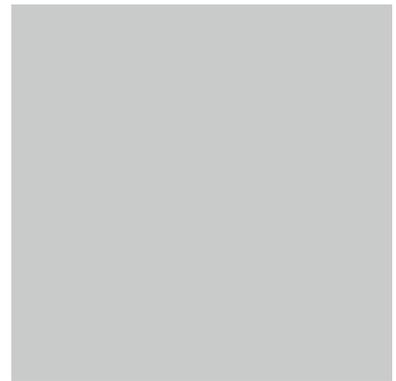
284

## 権現山の壕

● 軍事施設

所在地：豊川市三上町権現下

緑野神社が鎮座する権現山の西麓に位置する。幅4m余、長さ10mに山の斜面を方形に掘削した壕4基、コの字形の坑道式掩蔽部1基がある。方形の壕は、車両格納用といわれている。（調査日：2024年11月18日）



## 285 牛久保国民学校の奉安殿

▲ その他

所在地：豊川市牛久保町常磐

木造切妻造瓦葺、壁・扉とも銅板張の奉安殿である。扉の両側に菊の紋章が取り付けられている。大正4年（1915）に建造された。終戦まで牛久保国民学校に設置されていたが、八幡宮境内に移築された。現在は英霊殿として使用され、戦死者の遺品が収納されている。本殿に向かって左奥に秋葉社などと共に並んでいる。（調査日：2024年10月15日）



## 286 三谷の乃木希典像

▲ その他

所在地：蒲郡市三谷長鳶欠

花崗岩製で高さ約400cmある。脱帽した帽子を右手に、左手で軍刀を持っている。大正9年（1920）に建立された。乃木山山頂に石垣基壇が造られ、三谷郷友会会長小田善一書で「乃木將軍像」と書かれた台座の上に安置されている。木柱に「乃木將軍伊勢神宮遙拝像」とあり、伊勢神宮を遙拝している姿を表している。隣接して忠魂社がある。（調査日：2024年12月4日）

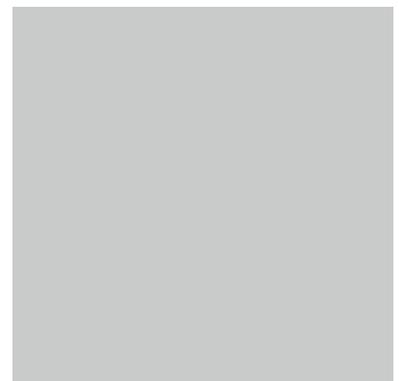


## 287 石巻西川町大福寺の壕

● 軍事施設

所在地：豊橋市石巻西川町城山

大福寺裏手の山林に壕や交通壕と思われる痕跡が残る。かつての調査では幅1.4m、長さ3.1m、高さ1.3mの防空壕とタコツボ12基が確認されている。（調査日：2024年11月15日）



## 295 権現山防空砲台

● 軍事施設

所在地：豊橋市石巻本町北入田

直径10.5mの砲座1基、兵舎予定地、テラス状遺構（監視施設予定地か）、事務所予定地、道路などが残存している。豊川海軍工廠を防衛するために2基の砲座が構築され、そのうち1基が残る。終戦後に掘りくぼめられて池として使用されたため、円形の池となり水を湛えている。昭和19年（1944）末頃構築工事が始まったが、昭和20年（1945）8月7日に豊川海軍工廠が空襲されたことから完成を見ることなく工事は中止されたと伝えられている。（調査日：2024年11月18日）



296

## 石巻本町南山の壕

● 軍事施設

所在地：豊橋市石巻本町南山

第七十三師団の本土決戦陣地（物資保管庫群）の一つ。正宗寺山の斜面に壕跡7基を確認した。往時には幅1.6m、長さ3mの方形の壕46基、幅3m、長さ8mの方形の壕6基があったという。現在は自然崩壊し、草木に覆われている状態。（調査日：2024年10月17日）



298

## 石巻本町瀬戸の壕

● 軍事施設

所在地：豊橋市石巻本町瀬戸

正宗寺山の南西側の麓の林道脇の斜面を掘りこんで、方形の壕2基とタコツボと思われる窪地を確認した。かつての調査では底部幅3m、長さ5mほどの方形の壕17基、タコツボ7基が確認されている。物資保管が目的と考えられる。（調査日：2024年11月15日）



299

## 石巻本町向野の壕

● 軍事施設

所在地：豊橋市石巻本町向野

方形に掘りこんだ壕3基を確認した。『愛知県史』では幅2.5m、長さ5mほどの方形の壕7基、坑道入口部4箇所があったとされる。坑道入口部は確認できなかった。（調査日：2024年11月15日）



302

## 嵩山町奈木の壕

● 軍事施設

所在地：豊橋市嵩山町奈木

第七十三師団の本土決戦陣地（物資保管庫群）の一つ。萬福寺裏手の山麓から谷あいにかけて壕が構築されている。方形の壕4基を確認した。『愛知県史』では底部幅3m、長さ5mほどの方形の壕が約30基あったとされる。（調査日：2024年11月15日）



## 306 豊橋公園の神武天皇像

▲ その他

所在地：豊橋市今橋町（豊橋市）

豊橋公園内の弥健神社跡にあり、切石積み台座の上に載せられている。高さ250cmあり、左手に弓、右手に矢を持ち、背には矢筒を負い、腰に太刀を帯びた武人姿である。

明治32年（1899）に八町練兵場に建立された軍人記念碑。東京美術学校教授岡崎雪声の制作で、明治天皇を模したものと伝わる。終戦後は撤去されていたが、昭和40年（1965）、像のみが現在の位置に建てられた。（調査日：2024年11月22日）



## 307 豊川堤防上の被災榎

◆ 空襲・戦災

所在地：豊橋市湊町

豊川左岸堤防上に立つ、被災した榎2本。この榎は、昭和20年（1945）6月20日の空襲で2本とも被災して大きく裂けている。現在は、火災により傷ついたところをコンクリートで埋めて補修し保存されている。（調査日：2024年11月15日）



## 314 牛川町の戦車壕

● 軍事施設

所在地：豊橋市牛川町乗小路

赤岩病院裏手の山林に方形の壕2基と交通壕と思われる窪地を確認した。『愛知県史』では、幅約3.3m、長さ9mの戦車格納壕5基があったとされる。（調査日：2024年11月15日）



## 317 工兵第三連隊の炊事場

● 軍事施設

所在地：豊橋市向山町中畑

明治41年（1908）に第十五師団工兵第十五大隊の炊事場として建てられた、煉瓦造切妻造平屋建の建物。現在、建物は住居と倉庫に使われている。（調査日：2024年10月17日）



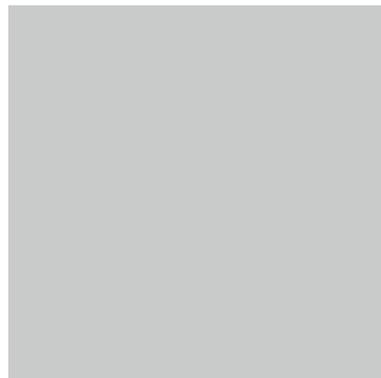
320

## 岩崎町長尾の壕

● 軍事施設

所在地：豊橋市岩崎町長尾（豊橋市）

葦毛湿原の周辺に壕7基を確認した。この壕は独立戦車第八旅団の燃料貯蔵壕で、『愛知県史』では149基あったとされる。シダ類や草木の繁茂により確認しづらいが、大半の壕は残っていると思われる。（調査日：2024年11月18日）



323

## 豊橋憲兵分隊の門

● 軍事施設

所在地：豊橋市富本町（愛知県）

豊橋警察署南部交番の敷地内に残存する、コンクリート造の門柱と土塁跡。門柱は標札のあった箇所が削られている。土塁の下部には石のブロックが土留めとして配された状態で残る。（調査日：2024年10月21日）



324

## 騎兵第十九連隊

● 軍事施設

所在地：豊橋市橋良町（豊橋市）

騎兵第十九連隊の土塁、門跡が残る。現在は豊橋市立福岡小学校の通用門として使われ、門柱と擁壁一対、それに続く土塁が残存。また、東門には擁壁一対とそれに続く土塁が残存。擁壁はコンクリートに亀裂が入っている。（調査日：2024年12月5日）



325

## 野砲兵第二十一連隊

● 軍事施設

所在地：豊橋市橋良町（愛知県）

県立時習館高等学校の敷地南西にある民家との境に擁壁の一部、土塁が残る。県立時習館高等学校の東側の通用門の位置は終戦時のままであるが、門柱は取り換えられている。歩哨舎1基は、陸上自衛隊豊川駐屯地に移設されている。（調査日：2024年11月27日）

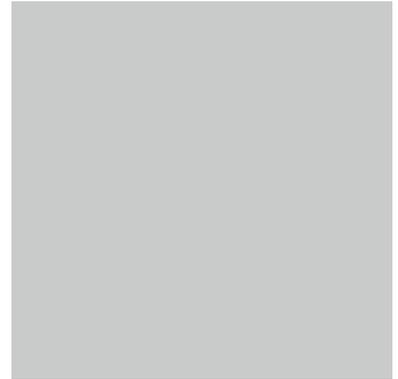


## 326 陸軍下水溝

● 軍事施設

所在地：豊橋市町畑町・橋良町・中野町・草間町（豊橋市）

第十五師団兵営設置時に整備された下水溝である。幅2尺（約60cm）または3尺（約90cm）の下水溝は、底部はコンクリート、両側は石垣になっている。下水溝は排水路につながれている。下水溝に架かる橋には、「師団都市下水道」もしくは「師団排水路」というプレートが埋め込まれているものがある。計測値は2023年度基礎調査による。（調査日：2024年10月21日）



## 327 陸軍排水路

● 軍事施設

所在地：豊橋市小浜町ほか（豊橋市）

山田川、内張川を改修し排水路として使用していた水路。新たに掘削された小浜線（師団川）には護岸の石積みや橋が現存する。

小浜線に架かるみのわ橋には「昭和拾参年六月■■■」のプレートがあり、また他の橋には「師団都市下水道」もしくは「師団排水路」のプレートが埋め込まれているものがある。（調査日：2024年11月22日）



## 330 第三師団兵器部豊橋出張所正門

● 軍事施設

所在地：豊橋市町畑町（豊橋市）

明治41年（1908）、第十五師団兵器支廠として設置され、主に弾薬を管理した。コンクリート造の正門と哨舎及び通用門塙が現在も残存している。哨舎は入口あたりのコンクリートが劣化して剥がれている。塙も多少傷ついているがほぼ当時の状態を維持している。塙の東側に解説板が立てられている。（調査日：2024年12月5日）



## 331 第三師団兵器部豊橋出張所兵器支廠通用門

● 軍事施設

所在地：豊橋市町畑町（豊橋市）

現在の豊橋市立南部中学校・栄小学校に所在する。門柱、擁壁跡。中学校の体育館南側で兵器支廠跡門柱一対を確認。門扉を取り付けた金具は残存。門にとりついていた土塁はなく、擁壁は向かって左側は大破、右側は破損して内部が見えている。（調査日：2024年12月5日）



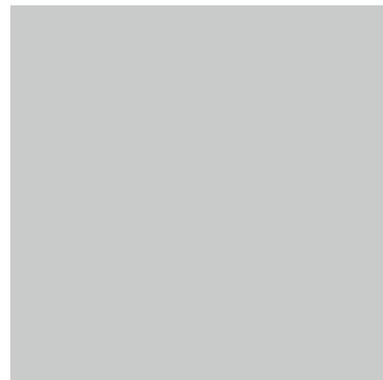
334

## 騎兵第二十六連隊

● 軍事施設

所在地：豊橋市中野町（豊橋市等）

騎兵第二十六連隊の土塁、門柱が残る。門柱は風化により劣化し、コンクリートが剥がれて煉瓦が露呈している。また、扉を取り付けたと思われる金具が残る。騎兵第二十六連隊は騎兵第二十五連隊とともに明治42年（1909）創設された。両連隊は中野町から橋良町にかけて大崎街道沿いに立地していた。（調査日：2025年1月24日）



335

## 輜重兵第十五大隊

● 軍事施設

所在地：豊橋市草間町（愛知県）

現在の県立豊橋工科高等学校、県立豊橋聾学校などの敷地にあたる。敷地の北東側に土塁、門柱が残る。門柱は、煉瓦保護のためか下部にトタン板のようなものを巻き、鉄柱で押さえているがかなりさびている。門扉を取り付けた金具も残存。また南側に石積擁壁一対も確認。擁壁に石垣などの構造物が取り付けいていた箇所は破損している。輜重兵は、軍隊において物資の輸送・管理の役割を担っていた。（調査日：2024年12月5日）



336

## 騎兵第二十六連隊の門・哨舎

● 軍事施設

所在地：豊橋市王ヶ崎町上原（豊橋市）

煉瓦造の門とコンクリート造哨舎が王ヶ崎東公園にある。「騎兵第26聯隊跡」慰霊碑も建つ。（調査日：2024年10月21日）



338

## 高山陸軍射撃場

● 軍事施設

所在地：豊橋市飯村町（国）

明治41年（1908）、第十五師団の射撃場として設置された。現在は、陸上自衛隊高山射撃場として引き継がれ、使用されている。『愛知県史』では瓦葺木造平屋建ての倉庫があったとされるが、現在は撤去されている。（調査日：2025年2月13日）



## 339 豊橋軍用水道貯水池

● 軍事施設

所在地：豊橋市飯村町（豊橋市）

明治41年（1908）着工、同45年（1912）完成した。第十五師団の軍用水道の貯水池である。煉瓦積の門跡、土塁、壕跡が残る。現在は、高山配水場の貯水池として使用されている。『愛知県史』では「陸軍用地」銘の石製境界柱があったとされるが、今回の調査では確認できなかった。（調査日：2025年1月24日）



## 341 小浜の戦車壕

● 軍事施設

所在地：豊橋市小浜町（豊橋市）

方形に掘削した戦車格納壕が3基残る。幅2.5m、長さ6m余ある。『愛知県史』では、県道386号線中浜池付近と万福寺前の小道沿いの2箇所に分かれて12基が構築されていたとされるが、現在は中浜池付近の壕のみが残る。（調査日：2024年10月21日）



## 343 独立重砲兵第三十七大隊二十四糎榴弾砲陣地

● 軍事施設

所在地：豊橋市大岩町火打坂（豊橋市）

大蔵山の北麓から西麓にかけて構築された。24糎榴弾砲砲座1基、半壊1基のほか方形の壕や坑道式掩蔽部が残る。二十四糎榴弾砲陣地は、砲座3基のほか方形の壕、坑道式掩蔽部から構成され、交通壕で結ばれていた。大蔵山の山頂部には観測所が置かれていたはずであるが、公園となっているため、今はない。（調査日：2024年11月20日）



## 344 第七十三師団重機関銃陣地

● 軍事施設

所在地：豊橋市大岩町火打坂（豊橋市）

岩屋山の北側山腹をくりぬいて構築した坑道式掩蔽部（銃座）が2基ある。東側が入口で、西側に銃眼がある。東方の山裾にコの字形の坑道式掩蔽部がある。銃座の北に構築途中の坑道式掩蔽部がある。開口部は封鎖されているが、現在も残存している。（調査日：2024年10月24日）



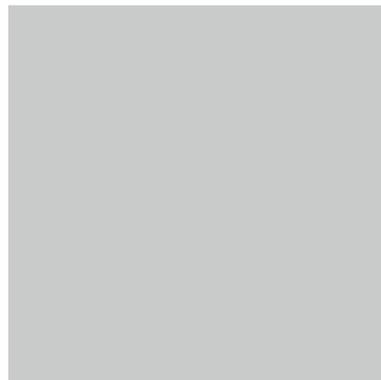
345

## 大岩町北山陣地

● 軍事施設

所在地：豊橋市大岩町北山

岩屋山の東、弓張山系の末端に位置する。監視所、坑道式掩蔽部の入口、交通壕など10箇所を確認した。かつては坑道式掩蔽部11基、コンクリート造の監視所及び観測所と思われる建物が4基、掩体又は掩壕19基などがあり、交通壕により連絡していた。第七十三師団の本土決戦の最後の砦である複廓陣地として重要拠点に位置付けられていた。(調査日：2024年11月1日)



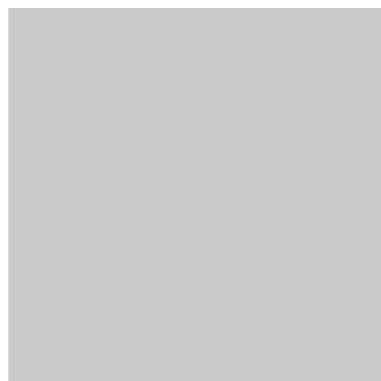
346

## 野戦重砲兵第五十三連隊の砲台

● 軍事施設

所在地：豊橋市大岩町北山

コンクリート造の砲台である。砲門口は南側にある。型枠の痕跡や砂利が多く混じる。十五糎榴弾砲を格納するために構築された。終戦前に部隊は静岡県気賀地区に移動した。(調査日：2024年11月27日)



347

## 高師原陸軍演習廠舎

● 軍事施設

所在地：豊橋市高師町（豊橋市）

跡地は現在、高師緑地公園になっている。公園の東端中央付近には、方形の土塁が残る。東西26.0～28.0m、南北13.0～16.0mあり、出入口と思われる箇所がある。公園の中ほどには敷地を区画する東西方向に土塁が残る。公園の南西隅付近にはコンクリート製門柱が1本残る。

園内にはV字形の傷が付いた松が6本以上ある。V字形の傷は、松やにを採取した跡である。松やには、松精油と呼ばれ、石油の代替品として研究が行われていた。計測値は『戦史考古学研究 第4号』による。(調査日：2024年10月24日)



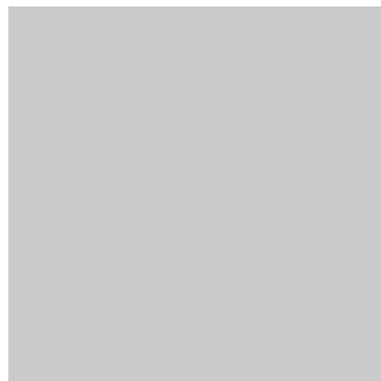
350

## 老津陸軍演習廠舎

● 軍事施設

所在地：豊橋市老津町池上（豊橋市等）

明治41年（1908）に第十五師団が設置された折に開かれた天伯原陸軍演習場に老津陸軍演習廠舎が建設された。『愛知県史』では、一辺8mのコンクリート造水槽、木造炊事場、井戸などがあったとされるが、本調査では水槽が2基確認できた。1基は民家の脇に現存し、水が溜まっており、上には落下防止の金網がかけられている。もう1基は豊橋市消防局の防火水槽として管理されている。その他の遺構は確認できず。(調査日：2024年12月4日)



## 353 東観音寺の隠蔽壕

● 軍事施設

所在地：豊橋市小松原町坪尻

東観音寺周辺にあったとされる、第七十三師団機関銃中隊の馬用隠蔽壕2基。調査では東観音寺裏山の中から壕跡と思われる場所を5箇所確認。馬用隠蔽壕は馬が出入りできるよう人間よりも大きな出入口、内部構造が必要とされるが、どれが相当するかは判別できなかった。見学不可。(調査日：2024年10月24日)



## 354 細谷の陣地

● 軍事施設

所在地：豊橋市細谷町

太平洋に面した丘陵縁に構築されたコンクリート製トーチカ、交通壕、坑道式掩蔽部などが残る。トーチカ周辺は畑地に造成された際、埋められたため掩蓋上部が露出するのみである。第七十三師団速射砲隊の陣地といわれている。(調査日：2024年12月4日)



## 356 暗り谷の陣地

● 軍事施設

所在地：豊橋市東七根町暗り谷

東七根町暗り谷にあったとされる、爆破されたトーチカと通路、崩落した棲息型坑道の前通路。調査では、七根海岸に面する丘陵内に壕と思われる窪地を2箇所確認した。1箇所はかなり深い。(調査日：2024年12月4日)



## 358 東横根の陣地

● 軍事施設

所在地：豊橋市東赤沢町東横根

赤澤神社のある丘陵部の東側は谷となっている。この谷に面した崖に幅1.5m余、高さ1.8m、奥行3~5mの坑道(横穴)が掘られており、7基を確認した。また、谷筋に方形の壕4基がかつてあった。(調査日：2024年11月11日)



359

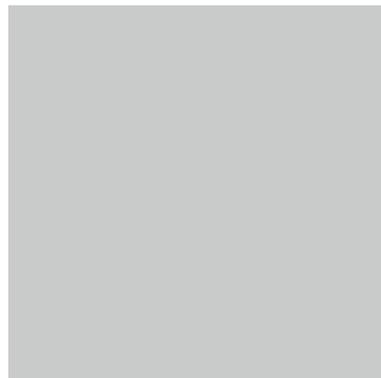
## 観音堂の陣地



軍事施設

所在地：豊橋市東赤沢町観音堂

第七十三師団の本土決戦陣地の一つ。太平洋に面した丘陵縁に構築された。小銃もしくは機関銃用掩体と交通壕により構成されていた。現在は掩体5基が残る。(調査日：2024年11月11日)



360

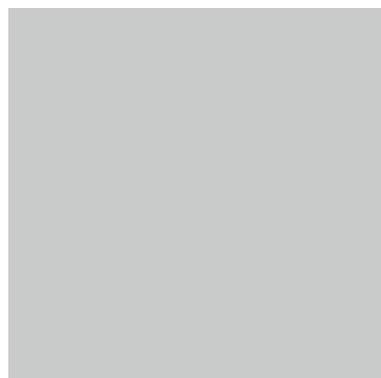
## 名操の陣地



軍事施設

所在地：豊橋市高塚町名操

高塚海岸に降りる途中、丘陵崖にコンクリート製トーチカが2基構築されている。小型のトーチカは道路より上方にあり、観測・監視用である。一方、道路際の大型のトーチカは、砲台である。入口はコンクリートで塞がれている。(調査日：2024年11月11日)



361

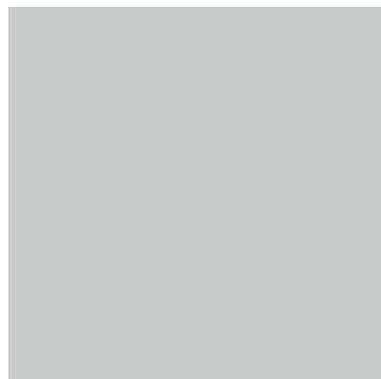
## 豊川海軍工廠の試砲場



軍需工場

所在地：豊橋市伊古部町枇杷谷（豊橋市）

遠州灘に面した断崖上に、2棟のコンクリート造建物が、また断崖上と敷地の東側には土塁が残る。試射は敷地中程から海岸に並行して東に向かって行われており、東側の土塁は射撃の際の暴発を防ぐためのものである。(調査日：2024年12月6日)



362

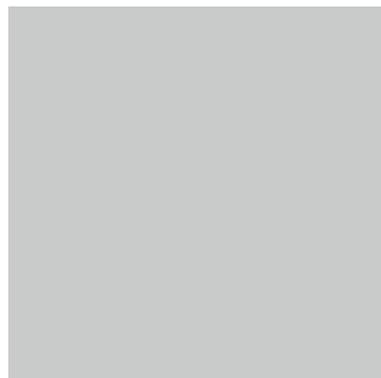
## 貴船神社裏の交通壕



軍事施設

所在地：豊橋市西赤沢町郷ノ内

貴船神社裏に、幅1m、深さ0.8m、長さ80mの交通壕、また西方にタコツボ2基があったとされる。調査では貴船神社境内地より南北に走る交通壕と隣接する吉祥院周辺より壕と思われる窪地を5箇所確認した。その内2箇所は円形の掘り込みのようでタコツボの可能性はある。(調査日：2024年11月11日)

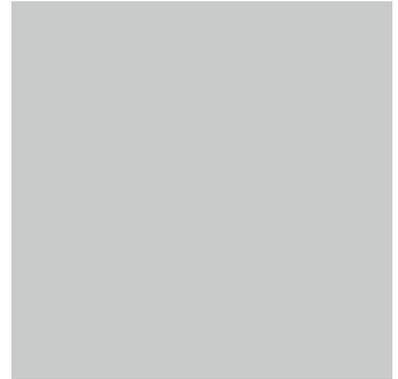


## 363 伊古部の陣地

● 軍事施設

所在地：豊橋市伊古部町（豊橋市）

『愛知県史』では、交通壕、トーチカ破壊跡、斜坑、水平坑道、タコツボがあったとされる。本調査では、土塁とコンクリート基礎などを確認。また、伊古部海岸に近い丘陵下方縁には、トーチカ破壊跡が残る。丘陵上から海岸におりる道を防御する位置に構築された。なお、水平坑道とタコツボは確認できなかった。（調査日：2024年12月6日）



## 364 城下町細田の陣地

● 軍事施設

所在地：豊橋市城下町細田

外法4.8m×5m、高さ2.3mの速射砲用砲台跡が残る。経年劣化により天井にひびが入っており、土壇の上に乗っている状態でやや不安定。砲口は南（海の方）に向いており上陸してくる敵に備えたもの。

現在は民家の物置として使用されている。（調査日：2024年11月11日）



## 365 豊橋海軍航空隊基地

● 軍事施設

所在地：豊橋市明海町・大崎町・船渡町

豊橋海軍航空隊基地は、三河湾の浅瀬を埋め立てて構築した日本唯一の海上航空基地である。昭和18年（1943）に完成した。基地外縁の護岸石垣の一部や列柱が残る。

また、陸側とは3本の橋で結ばれていた。そのうちの陸に近い橋（平嶋橋）が残り、昭和63年（1988）に南側へ拡張されたため、北側の欄干のみが残る。

対岸の丘陵縁の崖に多くの隧道式工作科倉庫、隧道式備品倉庫などが掘られたが、その内の1基はよく残っている。（調査日：2024年10月24日）



## 366 老津陸軍飛行場

● 軍事施設

所在地：豊橋市植田町・野依町

丘陵縁にタコツボ2基、土製掩体1基が残る。かつては土製掩体の正面に誘導路も存在したが現在、道路となっている。

この飛行場は昭和12年（1937）下志津飛行学校分教場として開場し、昭和18年（1943）には浜松陸軍飛行学校分教場となった。

また同年には飛行場設定練習部（中部第百部隊）が新設された際の訓練場ともなり、昭和19年（1944）、臨時編成した航空基地設定練習部に改編され、演習では滑走路、誘導路造りが行われた。（調査日：2024年11月1日）



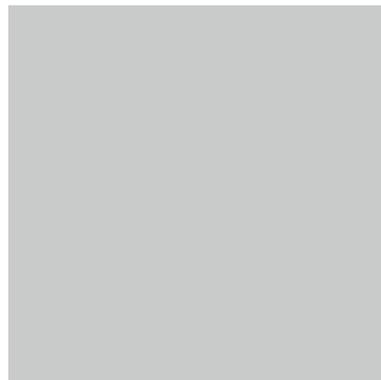
367

## 城下の陣地

● 軍事施設

所在地：豊橋市城下町恵下・築地ノ内

遺跡は太平洋に面した丘陵縁に立地している。戦国時代に築かれた畔田城の主郭を中心に構築されており、側面V字型の交通壕に壕及び土塁などを確認。交通壕は土塁状の高まりを断ち切って伸びているところがあるように思われる。(調査日：2024年11月11日)



368

## 伊良湖神社の兵士像

▲ その他

所在地：田原市日出町大越

伊良湖神社の鳥居をくぐりすぐ左手の茂みの中に、地元出身で日中戦争で戦死した陸軍歩兵伍長小久保幸一郎の石像がある。軍刀を下げ、右手をまっすぐ伸ばし、左手を後ろ手にしてまっすぐ前を見据えている。台座正面に松井石根大将書の「忠烈」の文字が刻まれている。また上部には「故陸軍歩兵伍長勲七等功六級小久保幸一郎君之像」とある。像に傷みは確認されない。台座の残り3面には小久保伍長の軍歴などが刻まれているようだが、風化して読みにくく、辛うじて「昭和十四年一月建之」の文字と発起人らの氏名が刻まれていることが確認できる。なお、遺族から関連資料の寄贈を受け、田原市博物館で所蔵している。(調査日：2025年7月29日)



373

## 伊良湖岬の陣地

● 軍事施設

所在地：田原市伊良湖町古山

現在の伊良湖神社のそばに構築された防衛陣地で、28 榴弾砲陣地を攻撃するために伊良湖岬に上陸する敵に対するものである。恋路ヶ浜側に対して古山中腹に砲台が構築された。砲門部は土砂で埋没している。砲台に付随して縦穴や坑道式掩蔽部が作られていたが、それと断定できる遺構は確認できなかった。わずかにそれらの跡かと思われる窪地を4箇所確認した。また伊良湖漁港側に対しても砲台が構築されていたが未完成である。(調査日：2024年12月23日)



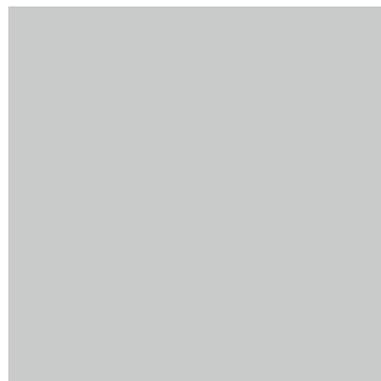
374

## 和名山の陣地

● 軍事施設

所在地：田原市堀切町和名山

和名山の山頂に壕跡、西方中腹に坑道、神社に防空壕があったとされる。調査では、和名山の中腹に壕跡らしい通路3箇所と寅之神社の下の防空壕の開口部を確認。攻撃型坑道には、敵に対する攻撃や奇襲を目的とするため、隠密性が高い・銃眼や発射口が設けられている・防御性が高いなどの特色があるが、該当するような場所は確認できなかった。(調査日：2024年12月23日)

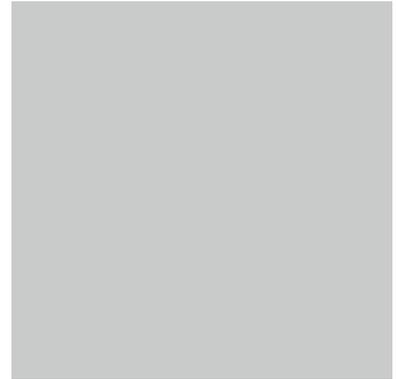


## 375 和名山の爆弾穴

◆ 空襲・戦災

所在地：田原市堀切町和名山

和名山の尾根上に巨大な穴を確認した。『愛知県史』では山頂部に直径13m、深さ5mの穴があるとされるが、現在は自然と崩落が進んでいる様子である。和名山には陣地が作られていたため軍の施設であった可能性も指摘されている。(調査日：2024年12月23日)



## 376 一色機関銃陣地

● 軍事施設

所在地：田原市和地町前畑

第七十三師団の本土決戦陣地として構築されたものである。和地町の海岸にある岩礁の陸側をくり抜き、コンクリートで補強した弾薬庫跡が確認された。コンクリートの上には偽装のため岩を貼り付けている。弾薬庫の中には多少土砂が入り込んでいた。

また、弾薬庫跡から西に約40m離れた地点で、岩礁の陸側を削りテラスとした銃座跡が確認された。海岸に上陸する敵に対して斜射する計画であった。(調査日：2024年12月25日)



## 379 小塩津の陣地

● 軍事施設

所在地：田原市小塩津町藤尾(田原市)

小塩津町藤尾に埋没した坑道の入口が山腹に6箇所、山頂部に1箇所あったとされる。調査では右禅坊山の山腹に坑道の入口を6箇所確認したが、ほとんど埋没しており確認しにくい状態であった。また内部には土砂が入り込み、状況は不明である。山頂部にあるとされる坑道は確認できなかった。(調査日：2024年12月18日)



## 384 高松の陣地

● 軍事施設

所在地：田原市高松町尾村崎

第七十三師団の本土決戦陣地として構築されたものである。高松の陣地跡として、山頂にコの字形坑道2基、山頂部に機銃陣地、防空壕が残るとされる。雨が森山の山腹の斜面に坑道の開口部を2箇所確認した。両方とも内部は斜面となっている。1箇所は反対側の開口部が確認出来る。細かい礫が落ちており、崩落の危険性もある。(調査日：2024年12月18日)



385

## 野田の監視哨



軍事施設

所在地：田原市野田町小山

三河湾に臨む小山の山頂、雑木林の中に哨舎のコンクリート基礎を確認した。また、貯水槽らしきものが置かれている。

さらに、石製の境界柱が2本残っており、側面に「陸軍」銘、上部に矢印が刻まれている。(調査日：2024年12月18日)



386

## 西圓寺のコンクリート製梵鐘



その他

所在地：田原市田原町巴江

金属類回収で供出した梵鐘の代替品として作られたコンクリート製の梵鐘。現在は田原市博物館に置かれている。一部破損しているが陰刻も残り、「大東亜戦争 記念」などの銘文が読める。(調査日：2024年9月27日)



387

## 笠山の機関銃陣地



軍事施設

所在地：田原市浦町笠山

笠山の東北隅に構築された機関銃陣地である。北に向けて円形の銃座が設けられ、雷形交通壕が南につながっていた。現在は東側山麓に坑道式掩蔽部2基が残るが、土砂で埋もれている。三河湾側からの攻撃に備えた陣地である。(調査日：2024年12月16日)



388

## 蔵王山の陣地



軍事施設

所在地：田原市吉胡町・田原町・白谷町

田原市街の北側に位置する蔵王山麓の田原中部国民学校に、第七十三師団歩兵第197連隊本部が置かれた。標高250.4mの蔵王山山頂を中心に陣地が構築され、山頂北面と、山頂西方から続く尾根の北面に、坑道式掩蔽部が構築された。坑道式の砲台跡は埋没しているが、入口前の通路が残る。(調査日：2024年12月6日)

